

研究業績 学会発表 2008年～2015年度

2015年度

白井理沙子・小川洋和	2016.3	無意識的処理過程に不快喚起特性が与える影響.日本心理学会「注意と認知」研究会 第14回合宿研究会(ホテルサンルートプラザ名古屋)
田淵恵	2016.1	積み木を用いた世代間コミュニケーション実験.第429回関西社会心理学研究会(KSP)(関西学院大学梅田キャンパス)
伏田幸平・小林剛史・長野祐一郎・片山順一	2015.1	心拍数で魅力を測る—高/中/低魅力の性的/非性的画像に対する心拍数の反応—.平成27年度日本人間工学会関西支部大会(大阪府立大学 I-siteなんば)
松本敦・井原綾・成瀬康・片山順一	2015.1	脳波による人物の印象評定の試み.平成27年度日本人間工学会関西支部大会(大阪府立大学 I-siteなんば)
田淵恵・三浦麻子	2015.1	知恵の伝承場面における感謝と制御適合.日本人間行動進化学会第8回大会(総合研究大学院大学)
Mitsufuji, Y. & Ogawa, H.	2015.1	Is face impression similar to voice impression? : A useful cue for face-voice matching. The 23rd Annual Workshop on Object Perception, Attention, and Memory, Chicago, U.S.
Shirai, R., Banno, H., & Ogawa, H.	2015.1	The spectrum characteristics of tryophobic images evoke saccade trajectory curvatures. The 23rd Annual Workshop on Object Perception, Attention, and Memory, Chicago, U.S.
福沢愛・三浦麻子・稲増一憲・中村早希	2015.1	選挙運動への近接性と投票行動との関連.CSIS DAYS 2015(東京大学).
福井隆雄・井上和哉・小松文洋・佐藤暢哉	2015.1	ヘッドマウントディスプレイを用いた到達把持運動における視覚・触覚情報の寄与に関する検討.日本バーチャルリアリティ学会VR心理学研究委員会(鹿児島大学)
木村司・片山順一	2015.1	身体に接近する視覚刺激系列の違いが後続する体性感覚事象の空間的予測に与える影.関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)
伏田幸平・片山順一	2015.1	プローブ刺激に対する P300 は身体的魅力の違いを反映する—無関連プローブ法を用いた動画刺激に対する注意量推定による検討—.関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)
廣瀬真理子・松見淳子	2015.1	複線径路等至性モデル(TEM)からみる青年期発達障害者家族が発達障害者相談窓口につながるまでのプロセス.関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)
高岡しの・松見淳子	2015.1	ユーモアは対人ストレス場面の対処法として有効か.関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)
沼田恵太郎・宮田洋	2015.1	条件反応の獲得とその評価—皮膚電気条件づけ事態を用いた場合—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)
堀麻佑子・沼田恵太郎・松田ことの・嶋崎恒雄	2015.1	意思決定に伴う後悔の発達の变化—前向きな中学生と後ろ向きな大学生—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
大竹恵子	2015.1	シンポジウム1 心理学を学び、研究し、実践する—ライフステージとキャリアパス—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).シンポジウム.
湯川徳子・大竹恵子	2015.1	家庭での食事場面に対する母親の意識についての研究—母娘ペアデータを用いた間主観性の検討—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
北條由華・大竹恵子	2015.1	課題固有の自己効力感が課題成績と目標設定の変容に与える影響—ポジティブフィードバックの影響に注目して—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
金田亜里沙・大竹恵子	2015.1	母親の自身と子に対する楽観性—子のいない既婚女性との比較—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
里見香奈・成田健一	2015.1	5答法による自発的自己概念の測定—20答法との比較から—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
馬場ちはる・松見淳子	2015.1	中学生の授業参加行動が学力、学校肯定感・回避感、および自尊感情に及ぼす影響—パス解析を用いて—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原)
庭山和貴・松見淳子	2015.1	通常学級に在籍する自閉症のある児童に対する担任教師と協働した行動的支援—担任教師の対象児に対する注目の増加が授業参加行動・離席行動に及ぼす効果—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
山岸厚仁・佐藤暢哉	2015.1	古典的条件づけ—道具的条件づけ間転移の文脈制御.関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス)
植田瑞穂・桂田恵美子	2015.1	養育者評定用の幼児共感尺度開発に向けた予備的研究—母親が評定する幼児の共感の構成および妥当性—. 関西心理学会第127回大会(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).
光藤優花・小川洋和	2015.1	顔と声のマッチングにおける顔の周辺情報の役割.第7回多感覚研究会(東京女子大)
植田瑞穂・桂田恵美子	2015.1	共感テストにおける無秩序・混乱型愛着の子どもの行動. FOUR WINDS乳幼児精神保健学会第18回学術集会弘前大会(弘前市民会館).
武藤麻美・釘原直樹・桂田恵美子	2015.1	家族形態と児童に対する社会的距離に関する研究—性役割態度と帰属複雑性の効果の検討—.日本社会心理学会第56回大会(東京女子大学).
佐藤暢哉	2015.10	ナビゲーションにおける意思決定.平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(神戸国際会議場).シンポジウム.
大竹恵子	2015.10	心理学的視点から見た、依存症の一次予防.平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(神戸国際会議場).シンポジウム.
高橋伸彰	2015.10	心理学的視点から見た、依存症の一次予防.平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(神戸国際会議場).シンポジウム.

松見淳子	2015.10	地域に根付く発達支援:学校園・地域支援センター、地域行政と大学との協働.日本臨床発達心理士会第11回全国大会 大会準備委員会企画シンポジウム(広島国際
松見淳子	2015.10	行動の機能分析を活用して臨床実践力を育てる:アセスメントから介入へ.日本認知行動療法学会第41回大会(仙台国際センター).教育講演,講師.
杉原聡子・米山直樹	2015.10	スタッフトレーニングプログラムにおけるビデオ・フィードバックの効果—指導行動間の獲得性に注目して—.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際センター・東
西川若菜・米山直樹	2015.10	自閉スペクトラム症児に対するPECSを用いた要求行動の形成.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際センター・東北学院大学)
田宮めぐみ・辻本友紀子・米山直樹・松見淳子	2015.10	放課後等デイサービスで参加児童が集団活動中に示す離席行動に対する機能的アセスメント研究.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際センター・東北学院
金喬・米山直樹	2015.10	自閉スペクトラム症と知的能力障害を伴う幼児に対する課題分析を用いた着替え指導.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際センター・東北学院大学)
松見淳子・廣瀬真理子・庭山和貴・馬場ちはる・田中善大・加藤美朗・高岡しの・河田浩	2015.10	通常学級におけるLD等への特別支援事業 等への特別支援事業—認知行動療法が地域発達支援で果たす役割—実践研究から得られた持続可能な支援の成果—.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際センター・東北学院).シンポジウム,
松見淳子・廣瀬真理子・庭山和貴・馬場ちはる・田中善大・加藤美朗・高岡しの・河田浩	2015.10	青年期発達障害支援事業—認知行動療法が地域発達支援で果たす役割—実践研究から得られた持続可能な支援の成果—.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際センター・東北学院).シンポジウム,話題提供.
SATO, N., TATE, K., & OKADA, M.	2015.10	Rats demonstrate helping behavior toward a soaked cagemate. Neuroscience 2015, 45th annual meeting of Society for Neuroscience, Chicago, U.S.A.
KAWAI, T., YAMADA, H., SATO, N., TAKADA, M., & MATSUMOTO, M.	2015.10	Outcome monitoring and behavioral adjustment by putative pyramidal neurons and interneurons in the primate anterior cingulate cortex during a reversal learning task. Neuroscience 2015, 45th annual meeting of Society for Neuroscience, Chicago,
Fuseda, K., Nagano, Y., & Kobayashi, T.	2015.10	Effects of attractiveness of opposite sex pictures on physiological responses. The 55th Annual meeting of the Society for psychophysiological Research, Seattle, U.S.
Sugimoto, F., & Katayama, J.	2015.10	Difficulty of visual oddball task modulates amplitude of P3 elicited by task-irrelevant auditory distractors. The 55th Annual meeting of the Society for psychophysiological Research, Seattle, U.S. Symposium.
Naka, S., & Katayama, J.	2015.10	The presentation timing if task irrelevant stimuli and the distraction effect. The 55th Annual meeting of the Society for psychophysiological Research, Seattle, U.S.
Kimura, T., & Katayama, J.	2015.10	The spatial expectation is modulated by congruency between approach of visual stimuli and location of subsequent somatosensory stimuli. The 55th Annual meeting of the Society for psychophysiological Research, Seattle, U.S.
Niwayama, K. & Tanaka-Matsumi, J.	2015.9	Effects of teacher attention on the on-task behavior of a child with PDD-NOS. Association for Behavior Analysis International 8th International Conference, Kyoto, Japan.
Katsurada, E., Akazawa, J., & Tanimukai, M.	2015.9	Institutionalized children's academic competence, adaptation to school, self-esteem, and people around them. Annual International Conference on Education, Psychology, and Society, Kuala Lumpur, Malaysia.
辻井農亜・三川和歌子・辻本江美・明石浩幸・安達融・切目栄司・小野久江・白川治	2015.9	メランコリー型うつ病におけるQOLと脳機能の関連.第37回日本生物学的精神医学会総会(タワーホール船堀)
伏田幸平・小林剛史・長野祐一郎	2015.9	異性画像に対する主観的魅力度の違いが身体反応に及ぼす影響.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)
伊藤一真・伏田幸平・小林剛史	2015.9	未知顔に対する否定的印象が顔の再認成績に及ぼす効果.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)
片山順一	2015.9	言語の心理学研究・神経科学研究を応用につなげる—「わかり」の評価・可視化・促進に向けて—.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場).シンポジウム,指定討
井上和哉・佐藤暢哉	2015.9	振動周波数が視覚刺激の時間知覚に与える影響.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)
道野菜・佐藤暢哉	2015.9	視点移動の方法が空間記憶に与える影響.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)
里見香奈・成田健一	2015.9	「自己」にかかわる心理学的研究の計量書誌学的分析—1980年代以降のわが国の学会誌における論文タイトルを対象として—.日本心理学会第79回大会(名古屋国際
増山晃大・沼田恵太郎	2015.9	わたしの知らない素敵な「私」—閾下条件づけによる潜在的抑うつ認知の変容—.日本心理学会第79回大会(名古屋大学).
前田由紀子・田中翔・廣瀬真理子・高橋知音	2015.9	求められる発達障害学生の家族支援とは 青年期にある発達障害者の家族のためのコミュニケーションスキルアップトレーニングプログラムの開発.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場).シンポジウム.
大森駿哉・片山順一・大竹恵子	2015.9	ポジティブ感情が親切行動場面における思考-行動レパートリー想起数と生理的反応に与える影響.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)
大竹恵子	2015.9	ウェルビーイングとパフォーマンスを高める心理学:ポジティブ心理学とコーチング心理学.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場).シンポジウム.
馬場ちはる	2015.9	機能的アセスメントに基づく中学生の学級支援:授業参加率と学力の相互関係.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場).
田淵恵	2015.9	「高齢者の子育て支援」における世代間インタラクション 超高齢社会におけるアクションリサーチの可能性.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)
高岡しの・松見淳子	2015.9	ユーモアスタイルと主観的健康指標との関係.日本心理学会第79回大会(名古屋国際会議場)

岡綾子	2015.9	知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する的当てゲーム活動を促進する環境調整と指導.日本特殊教育学会第53回大会(東北大学)
杉原聡子・岡綾子	2015.9	課題学習において逸脱行動を示す知的能力障害児に対して対戦形式による指導を用いた事例.日本特殊教育学会第53回大会(東北大学)
安田傑	2014.9	実験と応用の「はざま」でー研究倫理を考えるー.日本心理学会第78回大会(同志社大学).シンポジウム.話題提供.
陳香純・太田由加里・中島定彦	2015.8	陳香純・神田幸司・上野友香・友永雅己・中島定彦.バンドウイルカの吐き戻し行動に及ぼす遊具導入の効果.日本行動分析学会第33回年次大会(明星大学)
庭山和貴・松見淳子	2015.8	“自己記録手続きを用いた教師の言語賞賛の増加が児童らの授業参加行動に与える効果.日本行動分析学会第33回年次大会(明星大学)
沼田恵太郎	2015.8	恐怖はどこへ行った?ー自然回復と更新効果生起メカニズムの検討ー.日本行動分析学会第33回年次大会(明星大学).
岡綾子・米山直樹	2015.8	知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する協同ボール運び活動を促進する指導.日本行動分析学会第33回年次大会(明星大学)
杉原聡子・米山直樹	2015.8	スタッフトレーニングプログラムにおけるビデオ・フィードバックの効果.日本行動分析学会第33回年次大会(明星大学)
辻本友紀子・松見淳子	2015.8	放課後等デイサービスの集団活動場面における児童のOn-task行動およびOff-task行動に対する機能的アセスメント.日本認知・行動療法学会第41回大会(仙台国際セ
井上和哉・佐藤暢哉	2015.8	日本の心理学の統計教育の現状ー書籍の分析による予備的検討ー.日本教育心理学会第57回総会(朱鷺メッセ)
高岡しの・猪澤歩・森際孝司・本岡寛子・大対香奈子・藤田昌也・三田村仰・林敬子	2015.8	女子短大生に対するグループワークプログラム実践の試み(3).日本教育心理学会第57回総会(新潟コンベンションセンター)
田淵恵	2015.8	高齢者の知恵の伝授と若者の感謝ー制御焦点理論を用いた実験的検討ー.第172回社会行動研究会(東洋大学)話題提供.
白井理沙子・坂野逸紀・小川洋和	2015.8	Saccade trajectory revealed attentional capture and inhibition by tryphobic images.第38回神経科学学会サテライトシンポジウム(京都大学 稲盛財団記念館)
Hayashi, T., & Sato, N.	2015.7	The experiment of effect of the retrosplenial cortex lesion in shortcut task.第38回大会日本神経科学学会(神戸国際会議場).
Sato, N.	2015.7	Effects of lesions of the retrosplenial cortex on episodic memory in rats: answering to an unexpected question about past self-behavior.第38回大会日本神経科学学会(神戸国際会議場).
Kojima, Y., Sugimoto, F., Katayama, J., & Nakano, Y.	2015.7	Event-Related Potential Studies on M-Scrambling of Dative and Accusative Noun Phrases in Japanese. The 17th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences, Beppu, Japan.
山本亜実・辻本江美・竹谷怜子・小野久江	2015.7	対人関係カウンセリングによる大学生の抑うつ状態の変化について.第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会(京王プラザホテル)
辻井農亜・三川和歌子・辻本江美・明石浩幸・安達融・川久保善宏・廣瀬智之・小野久	2015.7	メランコリー型うつ病におけるQOLの特性.第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会(京王プラザホテル)
辻本江美・山本亜実・竹谷怜子・小野久江	2015.7	対人関係カウンセリングが有用であった学生相談の一事例.第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会(京王プラザホテル)
白井理沙子・小川洋和	2015.7	トライポフォビア喚起画像の特性がもたらす注意処理への影響.日本認知心理学会第13回大会(東京大学)
光藤優花・小川洋和	2015.7	静止画を用いた顔と声のマッチングにおける性格特性の印象の役割.日本認知心理学会 第13回大会(東京大学)
安枝貴文・小川洋和	2015.7	観察者の表情筋の操作が恐怖表情の想起に干渉する.日本認知心理学会 第13回大会(東京大学)
井上和哉・佐藤暢哉	2015.7	選択誘発性選好の生起に刺激の再評価は不要である.日本認知心理学会第13回大会(東京大学)
沼田恵太郎	2015.7	Recall and recognition memory in older adults: A longitudinal study.大阪大学国際共同研究促進プログラム(超高齢期高齢者のサクセスフルエイジングを支援する介護福祉サービスの開発に向けた認知脳科学的・老年社会学的研究).研究セミナー話
沼田恵太郎	2015.6	恐怖はどこへ行った?ー逆行阻止の生起メカニズムに関する実験的検討ー.日本感情心理学会第23回大会(新渡戸文化短期大学).
片山順一	2015.6	生理心理計測の人間工学的応用.日本人間工学会 第56回大会(芝浦工業大学芝浦キャンパス).シンポジウム.指定討論者.
Yamamoto, A., Tsujimoto, E., Taketani, R., Yano, M., Ito, Y., Miyoshi, T., Waki, H., & Ono, H.	2015.6	Effectiveness of Manga leaflet for suicide prevention in undergraduates. The 28th World Congress of the International Association for Suicide Prevention, Montréal, Canada.
Taketani, R., Tsujimoto, E., & Ono, H.	2015.6	Japanese teachers' attitudes toward suicide. The 28th World Congress of the International Association for Suicide Prevention, Montréal, Canada.
Tsujimoto, E., Yamamoto, A., Taketani, R., & Ono, H.	2015.6	A Pilot Study on Interpersonal Counseling for Depression, Suicidal Ideation, and Stress Coping Strategies in Japanese Undergraduates. The 28th World Congress of the International Association for Suicide Prevention, Montréal, Canada.
Oka, A.	2015.5	Guidance for Autistic Children with Intellectual Disability to Play Musical Chairs. Association for Behavior Analysis International. 41st Annual Convention, San Antonio, USA.

Niwayama, K. & Tanaka-Matsumi, J.	2015.5	Effects of teachers' self-recording of behavior specific praise on children's on-task behavior in the classroom. Association for Behavior Analysis International 41st Annual Convention, San Antonio, Texas, U.S.
Baba, C., Yamamura, N., & Tanaka-Matsumi, J.	2015.5	A functional behavioral assessment-based intervention of academic engagement of students in the regular classroom. Association for Behavior Analysis International 41st Annual Convention, San Antonio, Texas, U.S.
松村真宏・三浦麻子・小森政嗣・平石界	2015.5	東日本大震災関連ツイートにおけるメディアと感情表現の関連.人工知能学会全国大会2015(公立はこだて未来大学)
杉本史恵・片山順一	2015.5	聴覚イメージの複雑さが課題無関連な聴覚および体性感覚刺激に対するERPに及ぼす影響.第33回日本生理心理学会大会(グランフロント大阪)
仲早苗・片山順一	2015.5	無関連聴覚刺激の呈示タイミングが課題関連刺激および無関連刺激の処理に及ぼす影響.第33回日本生理心理学会大会(グランフロント大阪)
木村健太・澤田広樹・片山順一	2015.5	集団意思決定への責任が選択結果の評価に与える影響:事象関連脳電位を用いた検討.第33回日本生理心理学会大会(グランフロント大阪)
大森駿哉・伊藤一真・長野祐一郎・片山順一・小林剛史	2015.5	ビデオゲームの効果音の有無が心理的・生理的反応に与える影響—ポジティブ感情と没入感に着目して—.第33回日本生理心理学会大会(グランフロント大阪)
伊藤一真・伏田幸平・渡邊翔太・大森駿哉・中尾彩子・小林剛史・長野祐一郎	2015.5	売上本数の異なる2種のビデオゲームが自律系生理反応に与える影響.第33回日本生理心理学会大会(グランフロント大阪)
沼田恵太郎・小松文洋・佐藤暢哉・嶋崎恒雄・八木昭宏	2015.5	不確実性がネガティブ感情に与える影響—心拍数を指標として(1)—.第33回日本生理心理学会(グランフロント大阪).
小松文洋・沼田恵太郎・佐藤暢哉・嶋崎恒雄・八木昭宏	2015.5	不確実性がネガティブ感情に与える影響—心拍数を指標として(2)—.第33回日本生理心理学会(グランフロント大阪).
伏田幸平・小林剛史・長野祐一郎	2015.5	異性画像に対する主観的魅力度の違いが心拍数に及ぼす影響.第33回日本生理心理学会大会(グランフロント大阪)
三浦麻子	2015.5	市民は誰をどのように選択したか:兵庫県赤穂市長選挙における社会調査の結果から.日本選挙学会2014年度総会・研究会(熊本市市民会館崇城大学ホール)
沼田恵太郎	2015.5	不確実性がネガティブ感情に与える影響—心拍数を指標として—.日本生理心理学会若手の会(関西学院大学).ワークショップ話題提供.
村山綾	2015.4	刑事事件の被害者・加害者に対する一般市民の判断.2015年度第1回名古屋社会心理学研究会(NSP).(名古屋大学教育学部)発表者.

#### 2014年度

赤澤淳子・桂田恵美子・谷向みつえ・明石秀美	2015.3	児童養護施設入所時への個別学習支援プログラムの取り組み(1)—児童のアセスメントから—.日本発達心理学会第26回大会(東京大学)
明石秀美・赤澤淳子・桂田恵美子・谷向みつえ	2015.3	児童養護施設入所時への個別学習支援プログラムの取り組み(2)—施設職員の意識調査から—.日本発達心理学会第26回大会(東京大学)
谷向みつえ・桂田恵美子・赤澤淳子	2015.3	Attachment Doll PlayからみたDタイプの子どもの特徴.日本発達心理学会第26回大会(東京大学)
植田瑞穂・桂田恵美子	2015.3	乳幼児の愛着と母親のネガティブ感情に対する共感行動との関連.日本発達心理学会第26回大会(東京大学)
白井理沙子・小川洋和	2015.3	トライポフォビア喚起画像がサッカー軌跡に与える影響.日本心理学会「注意と認知」研究会 第13回合宿研究会(ホテルサンルートプラザ名古屋)
光藤優花・小川洋和	2015.3	顔から声を予測できるか?:静止画像を用いた顔と声のマッチングにおける性格特性の印象の役割.日本心理学会「注意と認知」研究会 第13回合宿研究会(ホテルサンルートプラザ名古屋)
沼田恵太郎	2015.3	古典的条件づけが商品選択に与える影響.第20回人間行動分析研究会(大阪市立)
Saito-Tanji, Y., Nishikawa, A., Tsujimoto, E., Taketani, R., Yano, M., Yamamoto, A., Maruyama, A., & Ono, H.	2015.3	Effectiveness of simple psychoeducation on patients' awareness of episodes in bipolar II disorder. The 5th World Congress of Asian Psychiatry (WCAP2015), Fukuoka, Japan.
坂野逸紀	2015.2	視覚情報に潜む規則性の抽出.日本神経科学学会CAPSシンポジウム(関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス).話題提供.
田淵恵・田中琴子・三浦麻子	2015.1	経験から得た知恵の継承場面における世代間相互作用の実験的検討.電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(ベイリゾート小豆島)
竹谷怜子・山本亜実・矢野美琴・小野久江	2015.1	対人関係カウンセリング的介入が有効であった対教師暴力により反応性.日本学校メンタルヘルス学会第18回大会(兵庫県民会館)
Kawai, T., Yamada, H., Sato, N., Takada, M., & Matsumoto, M.	2014.1	Past outcome monitoring and subsequent behavioral adjustment in the primate lateral habenula and anterior cingulate cortex during a reversal learning task. 国際シンポジウムVMT2014"Vision, Memory, Thought: how cognition emerges from neural network, Tokyo, Japan.
坂野逸紀・佐藤暢哉	2014.1	視覚・触覚情報間に存在する量的な規則性に対する知覚.日本基礎心理学会第33回大会(首都大学東京)
安田傑	2014.1	ロールシャッハ法における、統合失調症群と健常対照群の眼球運動指標のメタ分析.日本ロールシャッハ学会第18回大会(佛教大学)
光藤優花・小川洋和	2014.1	静止画を用いた顔と声のマッチングにおける性格特性のイメージの役割.第6回多感覚研究会(広島大学)
安田傑・桂田恵美子	2014.1	幼児の共同注視傾向は、相手が母親か他人かで異なるか.日本教育心理学会第56回総会(神戸国際会議場)

箕浦有希久・成田健一	2014.1	日記法による全般的・領域特定の自尊感情の変動性とレベル—Web調査データによる検討—.関西心理学会第126回大会(大阪市立大学杉本キャンパス)
堀麻佑子・沼田恵太郎・中島定彦・嶋崎恒雄	2014.1	課題の親近性が曖昧性忌避に及ぼす影響.関西心理学会第126回大会(大阪市立大学)
中見仁美・桂田恵美子	2014.1	幼児の粘土作品と創造性との関連.日本教育心理学会第56回総会(神戸国際会議場)
安田傑・桂田恵美子	2014.1	幼児の共同注視傾向は相手が母親か他人で異なるか.日本教育心理学会第56回総会(神戸国際会議場)
高岡しの・猪澤歩・森際孝司・本岡寛子・大対香奈子・藤田昌也・三田村仰・林敬子	2014.1	女子短大生に対するグループワークプログラム実践の試み(2).日本教育心理学会第56回総会(神戸国際会議場)
金田亜里沙・大竹恵子	2014.1	母親の楽観主義が育児幸福感に及ぼす影響.日本健康心理学会第27回大会(沖縄科学技術大学院大学)
大竹恵子	2014.1	女性とたばこ—女性に対する喫煙予防と禁煙支援—.日本健康心理学会第27回大会(沖縄科学技術大学院大学).シンポジウム.
陳香純・太田由加里・中島定彦	2014.1	スピン行動とターン行動におけるイヌ(Canis lupus familiaris)のラテラリティ.日本動物行動学会第33回大会(長崎大学)
北條由華・大竹恵子	2014.1	過去のネガティブ経験における感情の変化と成長.日本健康心理学会第27回大会(沖縄科学技術大学院大学)
高岡しの・佐藤寛	2014.1	児童の抑うつ症状に対する日常ストレスと社会的スキルとの関連.日本認知・行動療法学会第40回大会(富山国際会議場)
Kawai, T., Yamada, H., Sato, N., Takada, M., & Matsumoto, M.	2014.1	Representation of past negative outcome and subsequent behavioral shift in the primate lateral habenula and anterior cingulate cortex. Neuroscience 2014, 44th annual meeting of Society for Neuroscience, Washington, DC, U.S.
Katsurada, E.	2014.10	Knowing one's own childhood promotes college students' identity. Society for Research in Child Development Special Topic Meeting: Positive Youth Development in the Context of the Global Recession, Prague, Czech Republic.
辻井農亜・三川和歌子・辻本江美・切目栄司・川久保善宏・坂中総一郎・廣瀬智之・高屋雅彦・柳雅也・小野久	2014.10	双極性障害における衝動性・攻撃性と絶望感:自殺傾性との関連.第13回 Bipolar Disorder研究会(経団連会館)
高橋伸彰・成田健一・嶋崎恒雄	2014.10	主観的動機の種類に基づく各嗜癖行動の類似性.平成26年度 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(パシフィコ横浜)
高橋伸彰	2014.10	依存・嗜癖問題への心理学的アプローチ.平成26年度 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(パシフィコ横浜).シンポジウム.
辻井農亜・三川和歌子・辻本江美・安達融・川久保善宏・阪中聡一郎・小野久江・白川斎藤元幸・嶋崎恒雄	2014.9	うつ病患者における自殺傾性と脳機能の関連:a near-infrared spectroscopy study.第36回日本生物学的精神医学会総会(奈良県文化会館・奈良県新公会堂)
山本亜実・和氣晴菜・竹谷怜子・辻本江美・矢野美琴・伊吉田早希・井上美沙・高岡しの・佐藤寛	2014.9	因果学習における介入の促進効果.日本認知科学会第31回大会(名古屋大学)
山本亜実・和氣晴菜・竹谷怜子・辻本江美・矢野美琴・伊吉田早希・井上美沙・高岡しの・佐藤寛	2014.9	大学生の自殺予防における漫画仕立ての小冊子の有用性.第38回日本自殺予防学会総会(北九州国際会議場)
吉田早希・井上美沙・高岡しの・佐藤寛	2014.9	うつ病リスクの高い大学生に対する集団認知行動療法の維持効果.第14回日本認知療法学会(グランキューブ大阪)
坂野逸紀	2014.9	複雑な環境に対する瞬間的視覚情報処理の特性.日本心理学会第78回大会(同志社大学)小講演.
沼田恵太郎・堀麻佑子・佐藤暢哉・中島定彦	2014.9	古典的条件づけによる潜在的態度の形成—二重過程モデルに関する実験的検討—.日本心理学会第78回大会(同志社大学)
高橋伸彰	2014.9	わかりあう,意識できる意識できない共感の科学.日本心理学会第78回大会(同志社大学).シンポジウム.
岡島泰三・桂田恵美子	2014.9	配偶者のアタッチメントスタイルの変化と応答性の変化—妊娠期から出産・子育て期にかけて—.日本心理学会第78回大会(同志社大学)
井上和哉・佐藤暢哉	2014.9	反応の変化ではなく,刺激の変化が系列効果を妨害する.日本心理学会第78回大会(同志社大学)
川合隆嗣・山田洋・佐藤暢哉・高田昌彦・松本正幸	2014.9	The lateral habenula and anterior cingulate cortex in primates differentially represent past negative outcome and subsequent behavioral shift.第37回日本神経科学大会(パシフィコ横浜)
堀麻佑子・沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2014.9	随伴性判断における結果の密度バイアス—抑うつリアリズムにおける文脈処理仮説の実験的検討—.日本心理学会第78回大会(同志社大学)
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2014.9	抑制的な因果関係における共変動情報の解釈.日本心理学会第78回大会(同志社大学)
高橋伸彰・成田健一・嶋崎恒雄	2014.9	人はなぜ嗜癖行動をするのか?:Web日記法を用いた主観的動機に関する調査から.日本心理学会第78回大会(同志社大学).
大竹恵子・加藤健二	2014.9	ボディ・イメージと主観的幸福感および食行動との関係.日本心理学会第78回大会(同志社大学)
沼田恵太郎	2014.9	随伴性学習に関する最近の研究動向:命題推論をめぐる.第22回行動数理研究会(同志社大学)
川合隆嗣・山田洋・佐藤暢哉・高田昌彦・松本正幸	2014.8	マカクザル前部帯状皮質と外側手綱核における行動切替えと報酬履歴の神経表現.第8回Motor Control研究会(筑波大学)
沼田恵太郎	2014.8	高齢者にみる記憶の変化—SONIC研究の知見から—.日本認知心理学会高齢者心理研究部会第10回(滋慶医療科学大学院大学)
上野永子・桂田恵美子	2014.7	愛着パターンの変容可能生についての研究-Adult Attachment Interviewデータからの検討-.日本家族心理学会第31回大会(京都教育大学)

沼田恵太郎	2014.7	古典的条件づけにおける意識性の役割—情動反応と態度形成を中心に—第31回感情と情動の研究会(同志社大学)
堀麻佑子	2014.7	コントロールの錯誤に関する実験的検討—道具的条件づけ事態を用いて—第133回海馬研究会(同志社大学)
Banno, H.	2014.7	The eccentricity effect in statistically-based scene understanding. The 10th Asia-Pacific Conference on Vision, Kagawa, Japan. Symposium.
Sato, N., Tate, K., & Okada, M.	2014.7	Rats help their cagemate even if they learned the help-related behavior by food reward. The 74 th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology, Aichi, Japan.
Hayashi, T., & Sato, N.	2014.7	Examination of the property of cognitive map in rats using shortcut task in a lattice maze. The 74 th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology, Aichi, Japan.
Yamagishi, A., & Sato, N.	2014.7	Failure of backward conditioning is not attributed to a performance deficit. The 74 th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology, Aichi, Japan.
Yasuda, M.	2014.7	Correspondence between the region of the gaze and determinants of Rorschach responses. XXI International Congress of Rorschach and Projective Methods, Istanbul, Turkey.
Banno, H., & Sato, N.	2014.6	Extracting statistical relationship between visual and haptic signals. The 15th International Multisensory Research Forum, Amsterdam, Netherlands.
馬場ちはる	2014.6	通常学級での課題従事行動支援とPBS・RTIモデル.日本行動分析学会第32回年次大会(弘前大学).話題提供.
庭山和貴・松見淳子	2014.6	課題従事率が低い児童に対する通常学級における行動的支援.日本行動分析学会第32回年次大会(弘前大学)
沼田恵太郎・宮田洋	2014.6	特性不安と古典的分化条件づけ—皮膚電気条件づけ事態を用いて—日本感情心理学学会第22回大会(宇都宮大学).
安田傑	2014.5	“What’s wrong with the Rorschach?”による論争展開についての文献研究.包括システムによる日本ロールシャッハ学会 第20回記念大会(国立オリンピック記念青少年総合センター)
沼田恵太郎	2014.5	結果の加算性は順行阻止を調整する—皮膚電気条件づけ事態を用いて—第32回日本生理心理学会大会(筑波大学).

### 2013年度

小野久江	2014.3	若者の自殺を防ぐために.兵庫県・JCPTD(うつ病予防・治療日本委員会)・日本うつ病学会主催 平成25年度自殺予防講演会(ラッセルホール).パネルディスカッション.
桂田恵美子・赤澤淳子・谷向みつえ・上野永子・高橋恵子	2014.3	児童養護施設入所児とケアワーカーの愛着—相互作用・問題行動・バーンアウトとの関連—日本発達心理学会第25回大会(京都大学)ラウンドテーブル.企画者・話題
堀麻佑子	2014.3	迷信行動における結果の正負極性と持続時間の検討.第19回人間行動分析研究会(大阪教育大学)
Yamagishi, A., & Sato, N.	2014.3	Outcome devaluation effects in discrimination learning in rats. The 21st Annual international Conference on Comparative Cognition, Melbourne, USA.
Tanji Saito, Y., Nishikawa, A., Tsujimoto, T., Taketani, R., Maruyama, A., Ono, H.	2014.3	Simple psychoeducation conducted in a clinic for patients with bipolar II disorder. 16th Annual conference of the international society for bipolar disorders, COEX-Seoul, South Korea.
Tsujii, N., Mikawa, M., Tsujimoto, E., Ono, H., Shirakawa, O., et al.	2014.3	Reduced activation of the temporal cortex in patients with euthymic bipolar disorder during a verbal fluency task, A multi-channel near-infrared spectroscopy study. 16th Annual conference of the international society for bipolar disorders, COEX-Seoul, South Korea.
Tsujii, N., Mikawa, M., Tsujimoto, E., Ono, H., Shirakawa, O., et al.	2014.3	Reduced of left temporal cortex activation in suicide attempters with bipolar disorder after a verbal fluency task, A multi-channel near-infrared spectroscopy study. 16th Annual conference of the international society for bipolar disorders, COEX-Seoul, South Korea.
竹谷怜子・小野久江	2014.1	教員の自殺観とQOLについて.日本学校メンタルヘルス学会第17回大会(帝京大学八王子キャンパス)
丹野貴行	2013.1	強化率と強化スケジュールの機能分離.日本基礎心理学会第32回大会(金沢大学)
Kawai, T., Sato, N., Takada, M., & Matsumoto, M.	2013.1	Negative feedback monitoring by lateral habenula and anterior cingulate cortex in monkey during a reversal learning task. Neuroscience 2013, 43rd annual meeting of Society for Neuroscience, San Diego, USA.
廣瀬真理子	2013.1	ひきこもりの家族に支援-TEMIによってシステムに接近する試み-.対人援助学会第5回大会(立命館大学衣笠キャンパス).対人援助学会第5回大会企画シンポジウム.話
植田瑞穂・桂田恵美子	2013.1	1歳児の共観的行動—母親のネガティブな感情に対して—.乳幼児精神保健学会第16回学術集会広島大会(アステールプラザ)
井上和哉・菊地正・佐藤暢哉	2013.1	行為の主体感は好意の形成を促進するか.日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学)
生田美織・米山直樹	2013.10	大学生の発達障害の認知度に関する研究～心理・教育学系学部生と理工系学部生との比較～.日本LD学会(パシフィコ横浜)
高岡しの	2013.10	日本語版ユーモアスタイル質問紙の信頼性・妥当性の検討.第22回日本パーソナリティ心理学学会(江戸川大学)
高橋伸彰・成田健一・嶋崎恒雄	2013.10	インターネットアディクションの心理・環境的背景: 入手可能性, 志向性, 脆弱性の観点から.日本パーソナリティ心理学学会第22回大会(江戸川大学).

Niwayama, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2013.10	Helping a child with autism to interact with peers at school: Effects of setting joint playtime and social skills training. Association for Behavior Analysis International 7th International Conference, Merida, Mexico.
Nakajima, S., & Nakagawa, H.	2013.10	Renewal of acquired and then extinguished avoidance behavior in rats: Two single-subject experiments. Seventh International Conference of the Association for Behavior Analysis: International, Merida, Mexico.
Sugimoto, F. & Katayama, J.	2013.10	Attenuation of ERPs caused by repetition of irrelevant somatosensory stimuli varies with the difficulty of a main task. 53rd Annual Meeting - Society for Psychophysiological Research, Firenze, Italy.
Tsujimoto, E., Taketani, R., & Ono, H.	2013.9	Non-Suicidal Self-Injury And Stress-Coping Style In Japanese University Students. XXVII World Congress of the International Association for Suicide Prevention, Oslo, Norway.
Ono, H., Tsujimoto, E., Taketani, R., & Miyoshi, T.	2013.9	Suicidal Ideation And Stress-Coping In Young Japanese Adults. XXVII World Congress of the International Association for Suicide Prevention, Oslo, Norway.
Nagaishi, T.	2013.9	A Role-playing game (RPG) task:A New Tool for studying human associative learning. XXV INTERNATIONAL CONGRESS OF THE SPANISH SOCIETY FOR COMPARATIVE PSYCHOLOGY, San Sebastián, Spain.
Nishiyama, R., Nagaishi, T., & Masaki, T.	2013.9	Asymmetry of generalization decrement in human contingency learning use of positive feature and a negative or positive outcome. XXV INTERNATIONAL CONGRESS OF THE SPANISH SOCIETY FOR COMPARATIVE PSYCHOLOGY, San Sebastián, Spain.
Masaki, T., Nishiyama, R., & Nagaishi, T.	2013.9	Asymmetry of generalization decrement in human contingency : learning use of a negative feature and a negative or positive outcome. XXV INTERNATIONAL CONGRESS OF THE SPANISH SOCIETY FOR COMPARATIVE PSYCHOLOGY, San Sebastián, Spain.
Katsurada, E., & Sugihara, Y.	2013.9	The factors impacting attitudes toward parenting among Japanese male university students. 16th European Conference on Developmental Psychology, Lausanne, Switzerland.
Aisbitt, G.M., Saito, M., Nakajima, S., & Murphy, R. A.	2013.9	Developing an associative analysis of behavioural control. Conference on Intentional Inhibition: From Motor Suppression to Self-Control, University College London.
加藤健二・大竹恵子	2013.9	若ポジティブ感情と食行動ー改訂版DEBQと日本語版EMAQの作成と両者の関係の分析ー.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター)
岡田麻耶・佐藤暢哉	2013.9	ラットにおける向社会的行動の検討.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター)
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2013.9	因果構造の学習における事前知識の役割.日本心理学会第77回大会(北海道医療)
永石高敏	2013.9	随伴性判断における個人差.日本心理学会第77回大会(北海道医療大学)
沼田恵太郎・堀麻佑子・中島定彦	2013.9	古典的条件づけによる潜在的態度の形成ータレント画像を用いた商品広告についての実験的検討ー.日本心理学会第77回大会発表論文集(p.707)(北海道医療大学)
遠座奈々子・中島定彦	2013.9	ラットの条件性味覚嫌悪の再獲得に及ぼす耐性形成/拮抗条件づけ手続きの効果.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター)
中島定彦・橋本あや	2013.9	ラットにおける走行性味覚嫌悪の獲得と消去.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター)
柁木隆寿・中島定彦	2013.9	なぜヒトは動物を恐れるのか?ー恐怖感を喚起する要因の検討ー.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター)
中嶋智史・間山広江・請園正敏・高橋伸彰・高野裕治	2013.9	ラットの社会的再認における前頭前野損傷の影響: 実験室ラットにおける社会神経科学の試み (2).日本心理学会第77回大会(北海道医療大学).
安田傑	2013.9	ロールシャッハ法における反応領域への注視時間.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター)
水澤慶緒里	2013.9	小学校教師の過剰適応とバーンアウトの関連.日本心理学会第77回大会(札幌市産業振興センター)
馬場ちはる・松見淳子	2013.9	通常学級における児童の授業参加行動と学力の関係ー行動観察と教師評定を用いてー.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター)
高橋伸彰	2013.9	依存・嗜癖問題における心理学的研究の諸相.日本心理学会第77回大会(北海道医療大学).シンポジウム.
三浦麻子・小森政嗣	2013.9	東日本大震災関連ツイートにおける感情表出: 天災関連ツイートと人災関連ツイートによる差異と時系列変化.日本心理学会第77回大会(北海道医療大学)
木村健太・村山綾・三浦麻子・片山順一	2013.9	知覚的意思決定における各進捗が対人葛藤の処理に及ぼす影響.日本心理学会第77回大会(北海道医療大学)
高岡しの・松見淳子	2013.9	ストレス緩和に関連するユーモアスタイルとストレスラーの検討.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター)
水澤慶緒里	2013.9	臨床的問題にみる「ふつう」概念ー過剰適応の中の「ふつう」ー.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター).シンポジウム.
坂野逸紀	2013.9	日本人の色字共感覚 文字ー質感共感覚のケーススタディ.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター).話題提供.
井上和哉・佐藤暢哉	2013.9	フリッカー刺激が触覚の時間知覚に及ぼす影響.日本心理学会第77回大会(札幌コンベンションセンター)
高橋伸彰・成田健一・嶋崎恒雄	2013.9	「インターネット依存」は単一の疾病か?: 嗜癖するサービスとパーソナリティ特性の観点から見た心理学的背景の違い.日本心理学会第77回大会(北海道医療大学)
中島定彦	2013.9	ラットの走行性味覚嫌悪学習における近接CS事前呈示効果.日本動物心理学会第73回大会(筑波大学)

佐藤暢哉	2013.9	ラットのエピソード記憶—自己の行動に関する予期しない問いへの回答—日本動物心理学会第73回大会(筑波大学)
三好亨・辻本江美・竹谷怜子・小野久江	2013.9	若年者の抑うつ状態・自殺念慮とストレスコーピングとの関連.第37回日本自殺予防学会(秋田県総合保健センター)
川合隆嗣・佐藤暢哉・高田昌彦・松本正幸	2013.9	逆転学習課題におけるマカクザル前部帯状皮質と外側手綱核の機能的役割.日本動物心理学会第73回大会(筑波大学)
山岸厚仁・佐藤暢哉	2013.9	ラットにおける報酬の価値低減を用いた刺激—報酬間連合の検討.日本動物心理学会第73回大会(筑波大学)
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2013.9	因果構造の学習における共変動と事前知識の役割.日本認知科学会第30回大会(玉川大学)
川合隆嗣・佐藤暢哉・高田昌彦・松本正幸	2013.8	前部帯状皮質と外側手綱核の負の報酬シグナルが学習に果たす役割.2013年度包括脳ネットワーク夏のワークショップ(名古屋国際会議場)
岡綾子	2013.8	発達障害のある児童の小集団活動における活動参加を促進する環境調整の検討.日本特殊教育学会(明星大学)
高岡しの・佐藤寛	2013.8	公的・私的自意識と社交不安がインターネット依存に与える影響.日本行動療法学会第39回大会(帝京大学)
井上美沙・高岡しの・佐藤美幸・佐藤寛	2013.8	大学生に対するうつ予防プログラムのランダム化比較試験(1)—集団認知行動療法の介入効果—日本心理臨床学会第32回秋季大会(パシフィコ横浜)
高岡しの・井上美沙・佐藤美幸・佐藤寛	2013.8	大学生に対するうつ予防プログラムのランダム化比較試験(2)—集団認知行動療法の5ヶ月フォローアップにおける維持効果—日本心理臨床学会第32回秋季大会(パシフィコ横浜)
山村成美・松見淳子	2013.8	マンドリンオーケストラにおける演奏不安に影響を与える要因の検討.日本行動療法学会第39回大会(帝京平成大学)
高岡しの・井上美沙・佐藤美幸・佐藤寛	2013.8	集団認知行動療法における顕在的指標と潜在的指標の変容—大学生のためのうつ予防プログラムにおける検討—日本認知療法学会第13回大会(帝京大学)
佐藤寛・三田村仰・高岡しの・井上美沙・佐藤美幸	2013.8	うつ病リスクの高い大学生のための集団認知行動療法:プログラム参加者の時系列的変化に関する予備的分析.第13回日本認知療法学会(帝京大学)
高岡しの・猪澤歩・森際孝司・本岡寛子・大対香奈子・藤田昌也・三田村仰・林敬子	2013.8	女子短大生に対するグループワークプログラム実践の試み.日本教育心理学会第55回総会(法政大学)
安田傑・桂田恵美子	2013.8	日本版IFEEL Picturesの情動的明瞭性の基礎研究.日本教育心理学会第55回総会(法政大学)
Takaoka, S., Inoue, M., Noguchi-Sato, M., & Sato, H.	2013.8	A Randomized Pilot Trial of an Indicated Depression Prevention Program with Japanese College Students: Five Month Follow-Up. The 4th Asian Cognitive Behavior Therapy (CBT) Conference 2013, Tokyo, Japan.
Sato, N., Fujishita, C., & Yamagishi, A.	2013.8	Flexible spatial performance of rats based on the cognitive map in a grid maze. The 121st Annual convention of American Psychological Association, Honolulu, USA.
Saito, M., & Shimazaki, T.	2013.8	Interpreting Covariation in Causal Structure Learning. The 35th Annual Conference of the Cognitive Science Society, Berlin, Germany.
Miura, A., Komori, M., & Matsumura, N.	2013.7	The emotional timeline after the great east Japan earthquake. The 121st Annual Convention of American Psychological Association, Honolulu, USA.
Murayama, A., & Miura, A.	2013.7	The legal professional opinion and lay citizen's judgment during deliberation. The 121st Annual Convention of American Psychological Association, Honolulu, USA.
Tabuchi, M., & Miura, A.	2013.7	The Effects of Reactions from Younger Generations on the Elderly. The 121st Annual Convention of American Psychological Association, Honolulu, USA.
Tanno, T.	2013.7	Interresponse time reinforcement in a variable environment procedure. The 121st Annual Convention of American Psychological Association, Honolulu, USA.
Nakajima, S.	2013.7	Flavor avoidance learning in rats based on sugar withdrawal. The 121st Annual Convention of American Psychological Association, Honolulu, USA.
志方文香・小畑明日香・米山直樹	2013.7	視覚支援を用いた自閉症児の音楽活動への参加行動の形成.日本行動分析学会(岐阜大学)
風早里美・米山直樹	2013.7	ファーストフード店における接客行動のパフォーマンス・マネジメント.日本行動分析学会(岐阜大学)
生田美織・大江佐知子・米山	2013.7	広汎性発達障害児における図形視写の指導.日本行動分析学会(岐阜大学)
丹野貴行	2013.7	変動環境法下での反応間時間の強化Ⅱ:全体強化率の影響.日本行動分析学会第31回年次大会(岐阜大学)
齊藤(丹治)由佳・小野久江・辻本江美・竹谷怜子・西川歩	2013.7	心理教育が著効した双極性感情障害患者.第10回日本うつ病学会総会(北九州国際会議場)
辻本江美・竹谷怜子・小野久江	2013.7	若年者の抑うつ状態・自殺とストレス対処方法の関係.第10回日本うつ病学会総会(北九州国際会議場)
明石浩幸・辻井農亜・三川和歌子・辻本江美・切目栄司・安達融・高屋雅彦・小野久	2013.7	軽症うつ病における自他覚症状の乖離とNIRSを用いた脳機能評価.第10回日本うつ病学会総会(北九州国際会議場)
辻井農亜・明石浩幸・三川和歌子・辻本江美・切目栄司・安達融・高屋雅彦・小野久	2013.7	軽症うつ病における自他覚症状の乖離.第10回日本うつ病学会総会(北九州国際会議場)
佐藤寛・井上美沙・高岡しの・三田村仰・佐藤美幸	2013.7	CES-Dによるうつ病の判別精度:ROC分析とSSLRを用いたカットオフスコアの再検討.第10回日本うつ病学会(北九州国際会議場)
末吉南美・三浦麻子	2013.7	負の資源分配における集団の公正感認知—災害がれきに関する公開データと架空の物語提示による検討—日本グループダイナミクス学会第60回大会(北星学園大)

寺島圭・三浦麻子	2013.7	低パフォーマンスの政府に対する評価と正統性との関連—シナリオを用いたオンライン調査による検討—日本グループダイナミクス学会第60回大会(北星学園大学)
安田傑	2013.6	ペア反応と片側反応の産出過程・説明過程の比較—眼球運動測定を用いたロールシャッハ反応の検証—包括システムによる日本ロールシャッハ学会第19回山梨大会(山梨英和大学)
井上和哉・佐藤暢哉	2013.6	振動周波数が時間知覚に及ぼす影響に関する半球優位性の検討.日本認知心理学会第11回大会(つくば国際会議場)
水澤慶緒里	2013.6	留学生の心身の健康について.関西学院大学日本語教育センター 日本語総合演習A(関西学院大学G号館).話題提供.
川合隆嗣・佐藤暢哉・高田昌彦・松本正幸	2013.6	外側手綱核と前部帯状皮質における学習シグナルの表現.第36回日本神経科学大会(国立京都国際会館)
Tsujii, N., Mikawa, W., Tsujimoto, E., Ono, E., & Shirakawa, O.	2013.6	Discrepancies between objective and subjective severity in major depressive disorder: A multichannel near-infrared spectroscopy study. 11th World Congress of Biological Psychiatry, Kyoto, Japan.
Mikawa, W., Tsujii, N., Tsujimoto, E., Ono, H., & Shirakawa, H.	2013.6	Inhibitory controls between suicide attempters and non-attempters with major depressive disorder: A multi-channel near-infrared spectroscopy study. 11th World Congress of Biological Psychiatry, Kyoto, Japan.
Tabuchi, M., Nakagawa, T., & Gondo, Y.	2013.6	The Causal Association between Generative Concern and Generative Acts. The 20th World Congress of International Association of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea.
Sato, H., Takaoka, S., Inoue, M., Mitamura, T., & Noguchi-Sato, M.	2013.5	Randomized pilot trial of an indicated depression prevention program for Japanese college students. Society for Prevention Research 21st Annual Meeting, San Francisco, U.S.A.
Takaoka, S., & Tanaka-Matsumi, J.	2013.5	The effect of specific humor styles on stressors and stress responses. 4th World Conference on Psychology, Counselling, and Guidance, Istanbul, Turkey.
Baba, C., & Tanaka-Matsumi, J.	2013.5	Behavioral observation of children's on-task behaviors in the classroom and their associations with teacher ratings of academic achievement. 4th World Conference on Psychology, Counselling, and Guidance, Istanbul, Turkey.
前田和甫・三浦麻子・小森政嗣	2013.5	原子力災害関連ツイートと天災関連ツイートにおける感情語頻度の周期的変動.電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(沖縄産業支援センター)
木村司・片山順一	2013.5	空間手がかり法を用いた視覚刺激による体性感覚刺激への注意操作: 体性感覚誘発電位を指標として.第31回日本生理心理学会大会(福井大学)
仲早苗・杉本史恵・片山順一	2013.5	注意を向けていないモダリティの刺激が課題関連刺激の処理に及ぼす妨害効果—視聴覚刺激を同時呈示する条件下における検討—.第31回日本生理心理学会大会
沼田恵太郎・宮田洋	2013.5	不安水準と古典的分化条件づけ—皮膚電気活動を指標として—.第31回日本生理心理学会大会(福井大学)
杉本史恵・片山順一	2013.5	高速連続刺激に対する体性感覚ERPの変化—視覚トラッキング課題の難易度の影響—.第31回日本生理心理学会大会(福井大学)
小松丈洋・植月静・柿木達也・横山和正・佐藤暢哉	2013.5	パーキンソン病患者では表情が空間的注意に与える影響は同年代の高齢者と変わらない?.第31回日本生理心理学会大会(福井大学)

## 2012年度

橋本あや・桂田恵美子・中島定彦	2013.3	保育園児の食事行動の発達—食物摂取時間と食具使用—.第24回日本発達心理学会(明治学院大学)
田淵恵	2013.3	中年期から老年期に渡るGenerativityの発達.日本発達心理学会第24回大会(明治学院大学)(ラウンドテーブル)
井上和哉・菊地正	2013.3	脅威刺激に類似した物体は注意の解放の遅延を生じさせる.第11回注意と認知研究会(ホテルサンルートプラザ名古屋)
佐藤寛・井上美沙・大井俊樹・上田紗津貴・高岡しの・佐	2013.3	潜在連合テスト(Implicit Association Test)による自殺リスクの検出.第19回日本行動医学会学術総会(東邦大学大森キャンパス)
山ノ上ゆき子・中島定彦	2013.3	わが国における「犬のしつけ教室」の現状II—Web サイトに示されたレッスン内容の分析—ヒトと動物の関係学会第19回学術大会(東京大学)
木村健太・村山綾・三浦麻子・片山順一	2013.1	知覚的意思決定における他者との葛藤処理メカニズムの検討.第2回社会神経科学研究会(自然科学研究機構 生理学研究所)
竹谷怜子・小野久江	2013.1	教員のメンタルヘルス—SF-36v2による教員のQOL—.第16回日本学校メンタルヘルス学会(広島市立大学)
Taketani, R., Tsujimoto, E., & Ono, H.	2012.1	Suicidal ideation and quality of life in Japanese adolescents. The 5th Asia Pacific Conference of the International Association for Suicide Prevention. Hyatt Regency Chennai, Chennai, India.
Tsujimoto, E., Taketani, R., & Ono, H.	2012.1	Suicidal behavior and stress-coping in Japanese adolescents. The 5th Asia Pacific Conference of the International Association for Suicide Prevention. Hyatt Regency Chennai, Chennai, India.
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2012.1	因果構造の学習における課題の複雑性と判断方略の変化—観察と介入に関する実験的検討—.日本認知科学学会第29回大会(仙台国際センター)
Tabuchi, M., Nakagawa, T., & Gondo, Y.	2012.1	The effects of positive feedback on 'generativity' in old age. The Gerontological Society of America's 65th Annual Scientific Meeting(San Diego, USA.)
辻井農亜・切目栄司・明石浩幸・三川和歌・安達融・辻本江美・小野久江・白川治	2012.1	当院における先進医療「光トポグラフィ検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」の現状.第25回日本総合病院精神医学会総会(大田区産業プラザ)

高岡しの・三田村仰・金谷尚佳・井上美沙・佐藤美幸・佐	2012.1	うつ病リスクの高い大学生に対する集団認知行動療法の試み—5ヶ月フォローアップにおける維持効果.第12回日本認知療法学会(東京ビッグサイト)
桂田恵美子	2012.1	大学生の親準備性:現在の両親との関係および赤ちゃんの泣き声に対する反応.日本教育心理学会第54回総会(琉球大学)
井上美沙・高岡しの・佐藤寛	2012.1	関西と関東の女子大学生における食行動異常とその心理学的背景の比較.第12回日本認知療法学会(東京ビッグサイト)
三浦麻子・楠見孝・小倉加奈代	2012.1	情報メディアに対する信頼と高次リテラシー—震災後のパネル調査データによる検討(1)—.日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場)
楠見孝・三浦麻子・小倉加奈代	2012.1	食品放射能リスク認知に及ぼす批判的思考態度と高次リテラシー—震災後の市民パネル調査データによる検討(2)—.日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場)
村山綾・三浦麻子	2012.1	集団内の関係葛藤と課題葛藤—誤認知と対処行動に関する文化差の検討—.日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場)
寺島圭・三浦麻子	2012.1	SNS利用はオフライン/オンライン社会関係資本を醸成するか:大学生のmixi利用を事例に.日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場)
村山綾・三浦麻子	2012.1	集団内の関係葛藤と課題葛藤の誤認知、対処行動、メンバーへの信頼に関する文化差の検討—日米比較から—.日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場).
末吉南美・三浦麻子	2012.1	ニュース接触、メディア・リテラシー、批判的思考態度が政治意識に及ぼす影響.日本社会心理学会第53回大会(つくば国際会議場)
箕浦有希久	2012.1	被拒絶経験における不公平感がその後の対処行動に及ぼす影響.2012年度院生リーグ(首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス)
沖中武・杉山翠・設楽茉莉絵・菅美知子・上田武・本山	2012.1	ポリグラフ検査における質問間隔が生体反応に及ぼす影響.日本法科学技術学会第18回学術集会(ホテルフロラシオン青山)
井上和哉	2012.1	単純接触効果の生起における内的表象の重要性.第22回関西若手実験心理学研究会(京都大学)
玉越勢治	2012.1	MMNを用いた心理学的研究の意義.第42回日本臨床神経生理学会(京王プラザホテル)
北村篤士	2012.1	有意義視聴覚刺激の一致・不一致時の情報処理過程の検討:ERPを指標として.日本基礎心理学会第31回大会(九州大学医学部百年講堂)
玉越勢治・長江新平・山村智弘・義平真規・八木昭宏・片	2012.1	課題難易度を反映するERP P300のブロック内変動の検討.日本基礎心理学会第31回大会(九州大学医学部百年講堂)
井上和哉・菊地正	2012.1	視覚イメージに対する単純接触効果(2).日本基礎心理学会第31回大会(九州大学)
中島定彦・橋本あや・永石高敏	2012.1	味覚溶液プールで水迷路学習を行うと味覚嫌悪学習は生じるか?.日本基礎心理学会第31回大会(九州大学医学部百年講堂)
箕浦有希久・成田健一	2012.10	2項目自尊感情尺度を用いた状態自尊感情の測定.関西心理学会第124回大会(滋賀県立大学)
村山綾・三浦麻子	2012.10	覚醒剤密輸事件に関する公判シナリオを用いた有罪・無罪判断のテキストデータ分析—批判的思考態度との関連—.法と心理学会第13回大会(武蔵野美術大学)
成田健一	2012.10	東日本大震災報告 気仙沼プロジェクト.日本老年行動科学会第15回大会(報告会)の話題提供(筑波大学東京キャンパス)
成田健一	2012.10	自己制御規範の心理学—3次元自己制御モデルの観点からの議論—.日本パーソナリティ心理学会第21回大会(シンポジウムの指定討論)(島根県民会館)
箕浦有希久・高橋伸彰・成田健一	2012.10	2項目自尊感情尺度の交差妥当性の検討—Web調査による横断的比較—.日本パーソナリティ心理学会第21回大会(島根県民会館).
水澤慶緒里	2012.10	精神科通院患者に見る過剰適応の特徴—成人用過剰適応尺度(OASAS)と文章完成法テスト(SCT)を用いて—.日本パーソナリティ心理学会第21回大会(島根県民会館)
高岡しの・佐藤寛	2012.10	体育会男子学生のパーソナリティ特徴.日本パーソナリティ心理学会第21回大会(島根県民会館)
佐藤寛・高岡しの	2012.10	体育会男子学生のパーソナリティが部活動における対人ストレス過程に及ぼす影響.日本パーソナリティ心理学会第21回大会(島根県民会館)
成田健一	2012.10	加齢による公的自意識の生涯発達の变化—私たちは誰の目を意識するのか?—.日本パーソナリティ心理学会第21回大会(島根県民会館)
加藤健二・大竹恵子	2012.10	食物の視覚呈示のみでも感性満腹感が生じる.日本味と匂学会第46回大会(大阪大)
Page, W. K., Sato, N., Froehler, M. T., & Duffy, C. J.	2012.10	Sequential stimuli reveal temporal interactions for path integration in MSTd neurons. Neuroscience 2012, Annual Meeting of the Society for Neuroscience(New Orleans, LA, USA.)
Sugimoto, F., & Katayama, J.	2012.9	ERPs elicited by irrelevant somatosensory stimuli to the shoulders reflect the amount of resources in a game task. 52nd Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research(New Orleans, U.S.A.)
Numata, K., Komatsu, T., Uetsuki, S., Kakigi, T.,	2012.9	Causal knowledge modulates backward blocking: An fMRI study. The 35th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society(Nagoya, Japan)
Tanji-Saito, Y., Ono, H., Tsujimoto, E., Taketani, R., Nishikawa, A., & Maruyama, A.	2012.9	Effectiveness of psychoeducation for patients with bipolar II disorder in a clinic. A case series study. The 2nd Meeting of East Asian Bipolar Forum (EABF) (第2回東アジア双極性研究会). Centennial Hall Kyushu University School of Medicine, Fukuoka
Nakajima, S.	2012.9	Human group matching in a gain-maximization and loss-minimization games The 6th Conference of the European Association for Behaviour Analysis, Lisbon, Portugal.
辻井農亜・明石浩幸・切目栄司・三川和歌子・安達融・佐藤篤・辻本江美・小野久江・	2012.9	うつ病患者における自殺傾性と抑制機能の関連. 第34回日本生物学的精神医学会(神戸国際会議場).
三川和歌子・辻井農亜・切目栄司・明石浩幸・安達融・佐藤篤・辻本江美・小野久江・	2012.9	うつ病患者における自殺傾性とNIRSによる脳機能評価. 第34回日本生物学的精神医学会(神戸国際会議場).

村山綾・三浦麻子	2012.9	専門家-非専門家による評議コミュニケーションに関する実験的検討-有罪・無罪判断に用いられる材料と参加者の満足度に注目して-. 日本グループ・ダイナミクス学会第59回大会(京都大学).
三田村仰・高岡しの・金谷尚佳・佐藤美幸・佐藤寛	2012.9	うつ病リスクの高い大学生に対する集団認知行動療法の試み(1) 予防プログラムの効果に関する予備的研究.日本行動療法学会第38回大会(立命館大学)発表論文集, 334-335. (2012年9月・京都府)
佐藤美幸・三田村仰・高岡しの・金谷尚佳・佐藤寛	2012.9	うつ病リスクの高い大学生に対する集団認知行動療法の試み(2)—抑うつ症状と自殺念慮の改善に関する媒介要因の分析—.日本行動療法学会第38回大会(立命館大学)
木村健太・片山順一	2012.9	多数決に基づく集団意思決定の結果評価メカニズムの検討.第35回日本神経科学大会(自然科学研究機構 生理学研究所)
辻本江美・竹谷怜子・矢野美琴・藤田結子・小野久江	2012.9	若年者の自殺観とストレスコーピングとの関係について. 第36回日本自殺予防学会(ベルサール新宿グランドホール).
矢野美琴・藤田結子・小野久江	2012.9	大学生の自殺に対する意識と不安の高さとの関係について. 第36回日本自殺予防学会(ベルサール新宿グランドホール).
斎藤元幸	2012.9	因果構造の学習における共変動情報の役割. 日本心理学会第76回大会(専修大学)
加藤健二・大竹恵子	2012.9	ポジティブ感情と食行動—改訂版DEBQと日本語版EMAQの作成と両者の関係の分析—. 日本心理学会第76回大会(専修大学)
丹野貴行・坂上貴之	2012.9	強化に近接した反応間時間に基づくスケジュールの弁別.日本心理学会大会(専修大学)
沼田恵太郎・堀麻佑子・中島定彦	2012.9	随伴性判断における結果の密度バイアス—連続型試行手続きを用いて—.日本心理学会第76回大会(専修大学)
堀麻佑子・沼田恵太郎・中島定彦	2012.9	結果事象の提示時間が制御幻想に及ぼす影響.日本心理学会第76回大会(専修大学)
小森政嗣・三浦麻子	2012.9	マイクロブログ投稿頻度の日内変動パターンと感情表出の関係.日本心理学会第76回大会(専修大学)
廣瀬真理子	2012.9	ナラティブを媒介とした学際的研究.日本心理学会第76回大会(専修大学)
高橋伸彰・箕浦有希久・成田	2012.9	インターネットの依存的な利用と精神的健康.日本心理学会第76回大会(専修大学).
岡田麻耶・佐藤暢哉	2012.9	false memoryの生成と不安との相関関係についての検討. 日本心理学会第76回大会(専修大学)
岡島泰三・桂田恵美子	2012.9	青年期のアタッチメントと初対面の人に対する行動(2).日本心理学会第76回大会(専修大学)
廣瀬真理子	2012.9	人間の発達変容をシステムとしてとらえる試み—TEMを用いて—.日本心理学会第76回大会(専修大学)
渥美友博・松見淳子	2012.9	運動が苦手な子どもの運動教室における集合行動の改善.日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
大江佐知子・米山直樹	2012.9	自閉症児における物を借りる行動の指導.日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
生田美織・米山直樹	2012.9	柔道の技の指導における行動的コーチングの効果.日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
小畑明日香・米山直樹	2012.9	知的障害児の対処行動における刺激等価性を用いた指導.日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
丹野貴行・坂上貴之	2012.9	変動比率及び変動時隔強化スケジュール下での反応パターンのモデリング 日本行動分析学会30回年次大会.(発表論文集, 22).日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
馬場ちはる・松見淳子	2012.9	課題の難易度と一次性強化子が自閉症幼児の苦手課題への参加に及ぼす影響: ディスクリート試行トレーニングによる療育場面における検討.日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
太田啓示・橋祐子・中島定彦	2012.9	高校生アルペンスキーヤーを対象とした行動的コーチングによるフォーム改善の取り組み—自己記録用紙を用いた指導—. 日本行動分析学会第30回年次大会(高知城ホール)
Yukihisa, M., & Ken' ichi, N.	2012.8	The Two-Item Self-Esteem scale (TISE): Reconfirmation of the scale's validity for Japanese university students. 2012 annual conference of the Korean psychological association international conference on "psychology: toward a just world", Chuncheon, Korea.
Saito, M., & Shimazaki, T.	2012.8	Strategy changes in causal structure learning: The role of task complexity.The 34th Annual Conference of the Cognitive Science Society(Sapporo, Japan)
Okajima, T., & Katsurada, E.	2012.7	Adolescents' attachment styles and their behaviors and attitudes toward strangers in Japan.International Society for the Study of Behavioural Development 2012 Biennial Meeting(Edmonton, Canada)
Nakami, H., & Katsurada, E.	2012.7	University students' perception of family relationships using the FAST and their parents' marital relationships.International Society for the Study of Behavioural Development 2012 Biennial Meeting(Edmonton, Canada)
Mizusawa, K., Dohi, I., & Nakazawa, K	2012.7	The relationship between over-adaptation, gender personality and mental health in Japanese employees and students.16th European Conference on Personality Psychology (ECP16)(University of Trieste, Trieste, Italy)
Katsurada, E.	2012.7	Changes and stabilities of attachment types among institutionalized children in Japan.International Society for the Study of Behavioural Development 2012 Biennial Meeting(Edmonton, Canada)
辻本江美・竹谷怜子・小野久江	2012.7	大学生における自殺の捉え方とその影響要因. 第9回日本うつ病学会(京王プラザホテル)
藤田結子・矢野美琴・菊池真緒・西垣翔平・伊藤優佳・橋本港・山本亜実・小野久江	2012.7	大学生における非定型うつ病の捉え方と抑うつ状態の関係. 第9回日本うつ病学会(京王プラザホテル)

竹谷怜子・辻本江美・小野久江	2012.7	教員における抑うつ状態とQOLの関係について. 第9回日本うつ病学会(京王プラザホテル)
杉本史恵・片山順一	2012.7	肩への体性感覚刺激を用いた無関連プローブ法: ゲーム課題への注意配分量を反映する事象関連脳電位の検討. 第14回 日本ヒト脳機能マッピング学会(京王プラザ)
井上和哉・武田裕司	2012.6	シーンの視覚探索課題及び記憶課題中に形成される物体表象の比較. 日本認知心理学会第10回大会(岡山大学)
Ono, H., Tanji-Saito, Y., Tsujimoto, E., Taketani, R., & Maruyama, A.	2012.6	Successful switching to Olanzapine from polypharmacy in a bipolar II disorder patient with suicidal ideations: a seven-year follow-up study. The 28th International College of Neuropsychopharmacology (CINP) World Congress of Neuropsychopharmacology (Stockholm, Sweden)
Baba, C., & Tanaka-Matsumi, J.	2012.5	Broadening the scope of functional behavioral assessment in regular classrooms. Association for Behavior Analysis International 38th Annual Convention (Seattle, USA)
Tanno, T., & France, C. P.	2012.5	Effects of 8-OH-DPAT, d-amphetamine, and prefeeding on choice in a variable environment. 35th Annual Conference of Society for the Quantitative Analyses of Behavior (Seattle, WA.)
Tanno, T., Gerak, L. R., & France, C. P.	2012.5	Effects of 8-OH-DPAT on delay discounting in pigeons. 38th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International (Seattle, WA.)
木村健太・江原清香・片山順一	2012.5	表情筋筋電図による質的に異なる快感情の評価. 日本感情心理学会第20回大会(神戸大学)
箕浦有希久・成田健一	2012.5	対人的拒絶の直後反応尺度を開発する試み. 日本感情心理学会第20回大会(神戸大学)
大西佳太郎・木村龍馬・小森政嗣・三浦麻子・松村真宏	2012.5	マイクロブログ投稿数の日内・週内変動と居住地域の関係. 第86回ヒューマンインタフェース学会研究会(沖縄県那覇市)
山岸厚仁・佐藤暢哉	2012.5	ラットを用いた再固定時の消去による自発的回復抑制の検討. 日本動物心理学会第72回大会(関西学院大学)
中島定彦・高本友紀・小川千佳・池内咲・橋本あや	2012.5	カフェイン・アルコール・ニコチンの慢性投与後の剥奪手続きによって生じるラットの風味忌避学習. 日本動物心理学会第72回大会(関西学院大学)
堀和音・中島定彦	2012.5	ラットはモリス水迷路でどの位置手がかりを用いるか?—狭い実験空間での追試—. 日本動物心理学会第72回大会(関西学院大学)
遠座奈々子・吉田亜弥・中島定彦	2012.5	ラットの自発的回復に及ぼす耐性形成/拮抗条件づけ手続きの効果—条件性味覚嫌悪事象を用いて—. 日本動物心理学会第72回大会(関西学院大学)
陳香純・関口杏菜・中島定彦	2012.5	ネコは自分の名前を認識しているか—多頭飼いのネコへの呼びかけ実験—. 日本動物心理学会第72回大会(関西学院大学)
木村健太・片山順一	2012.5	多数決による集団の意思決定に伴う結果の評価メカニズム—脳波の多人数同時測定による検討—. 第30回日本生理心理学会大会(北海道大学)
杉本史恵・片山順一	2012.5	肩への体性感覚刺激を用いた無関連プローブ法の検討—ERPを指標としたゲーム課題への注意配分量の評価—. 第30回 日本生理心理学会大会(北海道大学)
土田幸男・片山順一・室橋春光	2012.5	ワーキングメモリ容量の個人差と聴覚および視覚感覚入力に対する干渉制御の関係. 第30回日本生理心理学会大会(北海道大学)
黒田奏子・大塚拓朗・片山順一	2012.5	記憶の有無と記銘時期の違いがP300に及ぼす影響. 第30回日本生理心理学会大会(北海道大学)
玉越勢治・箕浦菜々子・片山順一	2012.5	音高, 音圧の逸脱に対するMMN頂点潜時の非対称性の検討. 第30回日本生理心理学会大会(北海道大学)

## 2011年度

山之上ゆき子・中島定彦	2012.3	わが国における「犬のしつけ教室」の現状—Webサイトの内容分析から—. ヒトと動物の関係学会第18回学術大会(東京大学)
成田健一	2012.3	東日本大震災被災地への支援 気仙沼プロジェクト報告. 日本老年行動科学会記念プログラム東日本大震災報告(シンポジウム話題提供).(筑波大学東京キャンパス).
吉田恵三・成田健一・岡本祐子	2012.3	学齢期児の母親が持つ育児感情とコーピングの関連. 日本発達心理学会第23回大会(名古屋国際会議場)
Miyabe, M., Aramaki, E., & Miura, A.	2012.2	Use trend analysis of Twitter after the Great East Japan Earthquake. The 2012 ACM Conference on Computer Supported Cooperative Work, Seattle, USA.
小松文洋・佐藤暢哉	2011.1	情動による空間的注意の時間変動—解放から抑制へ—. 日本基礎心理学会第30回大会(慶應義塾大学).
辻本江美・竹谷怜子・小野久江	2011.1	大学生の自殺関連行為とストレスコーピングとの関係について. 第35回日本自殺予防学会総会(沖縄コンベンションセンター).
竹谷怜子・辻本江美・小野久江	2011.12	大学生の自殺と全体的健康度との関係について. 第35回日本自殺予防学会(沖縄コンベンションセンター).
Ikkai, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.1	Cross age-group comparisons of cultural self-construal among Japanese adolescents and young adults who received multicultural education. Second International Conference of Indigenous and Cultural Psychology, Bali, Indonesia.
Nakajima, S.	2011.1	Running-based taste aversion learning in Wistar, Sprague-Dawley, Fischer, and Lewis rats. The 52nd Annual Meeting of the Psychonomic Society, Seattle, USA.
Sato, N., Page, W. K., & Duffy, C. J.	2011.1	Task modulation of optic flow selectivity in MSTd neurons. Neuroscience 2011, Annual Meeting of the Society for Neuroscience, Washington, DC, USA.
Chin, H., Tomonaga, M., Nakajima, S., Uwano, Y., &	2011.1	Study of using self-view images in the bottlenose dolphin (Tursiops truncatus). The 19th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Tampa, Florida, USA.

Tachibana, Y., & Shimazaki, T.	2011.1	Effects of behavioral coaching on the improvement of shooting form in archery. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Hori, M., & Shimazaki, T.	2011.1	Why humans prefer free-choice: From the viewpoint of controllability. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Kurokawa, Y., & Miyashita, T.	2011.1	The effect of achievement priming on goal-oriented performance. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Yamashita, E., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.1	Effect of task difficulty and freedom of choice on sustained task activity of Japanese students. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Tsujimoto, Y., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.1	Effects of environmental prompts to increase approach behavior of customers in a book store. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Niwayama, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.1	An applied behavior analytic intervention in Kimono-wearing for Nohgaku performers in classic Japanese theater. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Nishiyama, R., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.1	Contingent praise counteracts the negative effect of response effort on on-task behavior. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
Baba, C., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.1	An analysis of functional assessment studies conducted in regular classrooms. Association for Behavior Analysis International 6th International Conference, Granada, Spain.
玉越勢治	2011.11	MMNと心理学. 第41回日本臨床神経生理学会(静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ).
岩橋瞳・米山直樹	2011.11	自閉症児に対する箸使用スキルの指導. 日本行動療法学会第37回大会(飯田橋レインボービル・家の光会館).
鈴木ひみこ・岩橋瞳・滝谷七重・森脇都志・作田麻紗子・	2011.11	精神科長期入院病棟における行動コンサルテーションの導入と効果の検討. 日本行動療法学会第37回大会(飯田橋レインボービル・家の光会館).
箕浦有希久・成田健一	2011.11	2項目自尊感情尺度の妥当性の検討—社会調査においてセルフ・エスティームを測定するために—. 関西心理学会第123回大会(京都学園大学).
小松丈洋・植月静・横山和正・佐藤暢哉	2011.11	パーキンソン病患者を対象とした情動刺激による空間的注意への影響について. 関西心理学会第123回大会(京都学園大学).
玉越勢治	2011.11	MMNと心理学. 第41回日本臨床神経生理学会(グランシップ(静岡市)).
廣瀬真理子	2011.11	個人を丁寧に記述するために—キーワードでとらえるTEMの実際. 日本質的心理学会第8回大会(広島安田女子大学).
岩橋瞳・米山直樹	2011.11	自閉症児に対する箸使用スキルの指導. 日本行動療法学会第37回大会(飯田橋レインボービル・家の光会館).
折田明子・三浦麻子	2011.10	ネットコミュニティの利用者の名乗りとアイデンティティ「発言小町」利用者調査分析(2):利用姿勢と実名・仮名・匿名. 経営情報学会2011年秋季全国研究発表大会(愛
高橋伸彰・廣中直行・嶋崎恒雄・成田健一	2011.10	テキストマイニング手法を用いた「依存」をめぐる用語の使用法に関する研究. 平成23年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(愛知県産業労働センター).
Arao, M., Suzuki, M., Katayama, J., & Yagi, A.	2011.10	Color congruent odorant is perceived prominently in mixture odor. The 12th International Multisensory Research Forum, Fukuoka, Japan.
Yamamoto, N., Utsumi, A., Fujimoto, K., Abe, S., & Matsuo, N.	2011.10	Gaze-reactive brightness control of car onboard display for ensuring visibility in night driving. The 14th International IEEE Conference on Intelligent Transportation Systems, Washington, DC, USA.
Minoura, N., Tamakoshi, S., & Katayama, J.	2011.9	Asymmetrical change in MMN peak latencies by reversing standards to deviants: using stimulus pair with different duration. The 51st Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research, Boston, USA.
Sugimoto, F., Nomura, A., & Katayama, J.	2011.9	Irrelevant probe technique with the P300 elicited by electrical stimuli to the shoulders. The 51st Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research, Boston, USA.
Muramatsu, M., & Katayama, J.	2011.9	Attentional capture for task-irrelevant emotional pictures appearing at surrounding location. The 51st Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research, Boston, USA.
Horikawa, M., & Yagi, A.	2011.9	The psychophysiological influences of mental tempo. The 51st Annual Meeting of the Society for psychophysiological Research, Boston, USA.
Horikawa, M.	2011.9	The interaction between coaching behavior and the mental state of soccer players. The 26th Annual Conference of the Association for Applied Sport Psychology, Honolulu, USA.
Taketani, R., Ono, H., Tsujimoto, E., & Maruyama, A.	2011.9	Efficacy of traditional Japanese medicines (Kampo) for depressive states in women. The 2nd Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Seoul, Korea.
Tsujimoto, E., Ono, H., Taketani, R., & Maruyama, A.	2011.9	Efficacy of olanzapine for depression in mixed episode. The 2nd Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Seoul, Korea.
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2011.9	意思決定に関する因果推論—因果モデルとパラメータの役割—. 日本認知科学会第28回大会(東京大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2011.9	因果学習における手がかり競合の非対称性. 日本認知科学会第28回年次大会(東京大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2011.9	ヒトの随伴性学習における順行/逆行ブロッキング. 日本心理学会第75回大会(日本大学).

沼田恵太郎	2011.9	カント去れヒュームは来れコロキウム—現代連合心理学の挑戦—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
高岡しの	2011.9	対人ストレス場面におけるユーモア刺激の産出. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
中島定彦	2011.9	ラットの運動性味覚嫌悪学習におけるUS作用メカニズムは走行も水泳も同じか? Animal2011 日本動物心理学会第71回大会・日本動物行動学会第30回大会・応用動物行動学会/日本家畜管理学会(2011年度)合同大会(慶應義塾大学).
陳香純	2011.9	イルカ類における自己鏡映像の認知. Animal2011日本動物心理学会第71回大会・日本動物行動学会第30回大会・応用動物行動学会/日本家畜管理学会(2011年度)合同大会(慶應義塾大学).(ワークショップ話題提供)
陳香純・友永雅己・中島定彦・上野友香・小倉仁	2011.9	バンドウイルカにおける自己映像を用いた自己認知の検討. Animal2011 日本動物心理学会第71回大会・日本動物行動学会第30回大会・応用動物行動学会/日本家畜管理学会(2011年度)合同大会(慶應義塾大学).
箕浦有希久・成田健一	2011.9	2項目による自尊感情測定の信頼性と妥当性の検討. 日本感情心理学会第19回大会・日本パーソナリティ心理学会第20回大会合同大会(京都光華女子大学).
福田哲也・成田健一・樋口匡貴	2011.9	対人コミュニケーション効力感の基本的性質の検討—Big Fiveとの関連から—. 日本感情心理学会第19回大会・日本パーソナリティ心理学会第20回大会合同大会(京都光華女子大学).
水澤慶緒里	2011.9	成人期の過剰適応と自尊心の関連—顕在的自尊心・潜在的自尊心からの検討—. 日本感情心理学会第19回大会・日本パーソナリティ心理学会第20回大会合同大会(京都光華女子大学).
桂田恵美子	2011.9	大学時代における男性性・女性性の発達—Japanese Gender Role Indexを用いて—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
中見仁美・桂田恵美子	2011.9	Family System Test(FAST)による大学生の家族認知—両親間の愛情との関連について—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
三浦麻子	2011.9	心理学を専攻する大学生の心理統計に対するイメージ—縦断的調査による検討(1)—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
岡島泰三・桂田恵美子	2011.9	青年期のアタッチメントと初対面の人に対する行動. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
高橋伸彰・古川茂人・高野裕治・廣中直行・柏野牧夫	2011.9	ラットのコミュニケーションにおける超音波発声の役割. 日本心理学会第75回大会(日本大学).
三浦麻子・楠見孝・小倉加奈代	2011.9	福島第1原発事故による食品の放射能汚染情報の信頼性評価(2) 利用する情報源とその信頼性評価. 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学).
楠見孝・三浦麻子・小倉加奈代	2011.9	福島第1原発事故による食品の放射能汚染情報の信頼性評価(1) 批判的思考とメディアリテラシーが及ぼす効果. 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学).
大江佐知子・米山直樹	2011.9	個人随伴性と相互依存型随伴性が大学生の英単語テストの成績に及ぼす効果. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
柳瑞穂・米山直樹	2011.9	自閉症児におけるハサミ課題場面での視覚及び言語プロンプトの効果. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
鈴木まや	2011.9	味覚研究のパノラマ—ニーズとシーズの構図—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).(ワークショップ企画および指定討論)
石曉玲・桂田恵美子	2011.9	育児期親の性別役割に特化したジェンダー観尺度の作成—日本と中国における信頼性・妥当性検討—. 第52回日本母性衛生学会総会(国立京都国際会館).
村山綾・三浦麻子	2011.9	発話データのコーディングによる集団内葛藤対処行動の検討.—集団討議終了時の実質的葛藤との関連—. 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学).
浅野俊夫・井澤信三・松見淳子	2011.9	東日本大震災の障がい児・者支援の状況と課題. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).(学会企画シンポジウム企画・司会)
馬場ちはる・野口美幸・松見淳子	2011.9	機能的アセスメントを通常学級場面に活かせるか:国内論文のレビューより. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
辻本友紀子・松見淳子	2011.9	環境操作が書店における来店者の接近行動に及ぼす効果の検討—看板およびPOP広告を用いて—. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
庭山和貴・松見淳子	2011.9	和服の着付けの改善に対する応用行動分析的アプローチ—大学能楽部に所属する男子学生の紋付袴の着付けを対象として—. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
野田航・松見淳子	2011.9	小学生の掛け算スキルに対する流暢性指導の効果—要素複合分析に基づく流暢性指導の波及効果. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
田中善大・馬場ちはる・鈴木ひみこ・嶋崎恒雄・松見淳子	2011.9	保育士を対象とした行動的支援の研修プログラムの効果:発達障害者支援センターにおける地域支援として. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
沖中武	2011.9	自転車・バイク利用者の安全行動に及ぼすプロンプトの効果—言語的プロンプトの効果の検討—. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
堀麻佑子・嶋崎恒雄	2011.9	獲得・損失状況における強制選択場面と自由選択場面間の選好—選択肢の提示数と選択可能性の観点から—. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
大江佐知子・米山直樹	2011.9	個人随伴性と相互依存型随伴性が大学生の英単語テストの成績に及ぼす効果. 日本行動分析学会第29回年次大会(早稲田大学).
木村健太	2011.9	心理ストレス研究における免疫系—現在の研究と将来への課題—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).(シンポジウム話題提供)
松見淳子	2011.9	科学者—実践家モデルと心理学. 認知行動療法は基礎心理学から生まれた—臨床実践のできる心理科学者をめざして—. 日本心理学会第75回大会(日本大学).(ワークショップ話題提供)
松見淳子	2011.9	子どもの育つ条件とは何か? 臨床研究からみる子どもの発達に欠かせない条件. 日本心理学会第75回大会(日本大学).(ワークショップ話題提供)

箕浦有希久・福田哲也・小倉諒子・成田健一	2011.9	郵送調査における督促状の効果—返送期間の指定が質問紙の返送に及ぼす影響—. 日本心理学会第75回大会 (日本大学).
福田哲也・成田健一	2011.9	対人コミュニケーション効力感尺度の概念的妥当性の検討—ソーシャルスキルの認知的側面との関連から—. 日本心理学会第75回大会 (日本大学).
佐伯昌洋・成田健一	2011.9	高校生の目標と学業成績の関連の検討. 日本心理学会第75回大会 (日本大学).
藤田昌也	2011.9	施設に入居する重度知的障害のある児・者を対象としたICFコアセットの作成. 日本心理学会第75回大会 (日本大学).
沼田恵太郎	2011.9	随伴性判断に関する最近の研究動向: 連合学習理論の適用をめぐって. 日本心理学会第75回大会 (日本大学). (ワークショップ話題提供)
永石高敏	2011.9	ヒトの学習研究における新しいツールの導入. 日本心理学会第75回大会 (日本大学). (ワークショップ話題提供)
遠座奈々子・中島定彦	2011.9	ラットの条件性味覚嫌悪の再発に及ぼす耐性形成/拮抗条件づけ手続きの効果. 日本心理学会第75回大会 (日本大学).
堀麻佑子・沼田恵太郎・高橋伸彰・中島定彦	2011.9	制御幻想の獲得における固定時間スケジュールの効果. 日本心理学会第75回大会 (日本大学).
高橋友子	2011.9	看護学生のポジティブな実習姿勢に影響する要因—基礎看護学実習前・基礎看護学実習後・前看護学実習終了後の比較—. 日本応用心理学会第78回大会 (信州大)
村山綾・三浦麻子	2011.8	大集団討議における実質的葛藤と心理的パフォーマンスとの関連. 日本グループ・ダイナミクス学会(昭和女子大学).
三浦麻子	2011.8	東日本大震災とオンラインコミュニケーション: そのときTwitterでは何が起きていたか. 日本グループ・ダイナミクス学会第58回大会(昭和女子大学).
石暁玲	2011.8	日本の大学における東アジア留学生のニーズに対応した支援モデルの構築: 発達支援の視点からの探索的検討. 日本学校心理士会2011年度大会 (大阪千里ライフサイエンスセンター).
Katsurada, E., & Sugihara, Y.	2011.8	Developmental aspect of gender role personality in Japanese college students. The 15th European Conference on Developmental Psychology, Bergen, Norway.
Yasuda, M.	2011.7	An Investigation and clustering of the keywords for color response: Using text mining. The 20th International Congress of Rorschach and Projective Methods,
Saito, M., & Shimazaki, T.	2011.7	Strategy changes as a function of task complexity in causal structure learning. The 33rd Annual Conference of the Cognitive Science Society, Boston, USA.
Kimura, K., Kanayama, N., & Hasegawa, T.	2011.7	Rule-based expectation modulates subjective and electrophysiological responses to unpleasant pictures. Plenary Meeting of the International Society for Research on Emotion 2011, Kyoto, Japan.
Kanayama, N., Kimura, K., Hiraki, K.	2011.7	Cortical EEG responses elicited by facial expression change. Plenary Meeting of the International Society for Research on Emotion 2011, Kyoto, Japan.
Saeki, N., & Narita, K.	2011.7	The effects of two types of envy on Schadenfruede. Plenary Meeting of the International Society for Research on Emotion 2011, Kyoto, Japan.
Ikkai, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.7	An empirical study of college life adaptation for the graduates of international school in Japan: Assessing culture through cultural self-construal scale. The regional conference of the International Association for Cross-Cultural Psychology, Istanbul, Turkey.
谷田薫	2011.7	大学経験の経時効果と持続効果. 日本教育心理学会第53回総会 (北海道立道民活動センター[かでの2.7]).
辻本江美・竹谷怜子・菊池真緒・西窪瑠衣・砂川智子・西川未穂・矢野美琴・小野久江	2011.7	大学生のストレスコーピングと抑うつ状態・自殺との関係について. 第8回日本うつ病学会総会 (大阪国際交流センター).
藤田結子・増田麻未・竹谷怜子・辻本江美・建部紀美子・植野修平・徳山周司・藤原亜	2011.7	ディスチミア親和型うつ病に対する大学生と社会人の捉え方の違い. 第8回日本うつ病学会総会 (大阪国際交流センター).
竹谷怜子・辻本江美・藤井紗波・貝美奈帆・前田直人・小	2011.7	大学生の全体的健康度と抑うつ状態・自殺との関係についての研究. 第8回日本うつ病学会総会 (大阪国際交流センター).
Hirose, M.	2011.6	Narratives in self-help group: A qualitative study of "Hikiomori Oya no Kai". The 1st Global Congress for Qualitative Health Research, Seoul, Korea.
Saito, M., & Shimazaki, T.	2011.5	Causal reasoning in decision making: The role of causal models and their parameters. European Conference on Cognitive Science 2011, Sofia, Republic of
Horikawa, M., & Yagi, A.	2011.5	The relationships between self-esteem level, self-esteem stability, and performance in soccer-ball-lifting task. The 7th World Congress on the Science and Football, Nagoya, Japan.
Nishiyama, R., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.5	Time for solving a problem affects the maintenance of on-task behavior: Implication for the response effort in academic setting. Annual Conference of Applied Behavior Analysis International, Denver, USA.
Sakamoto, S., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.5	Behavioral observation of the relationship between children's play and social interaction during school recess. Annual Conference of Applied Behavior Analysis International, Denver, USA.
Noda, W., & Tanaka-Matsumi, J.	2011.5	Effect of "Cover-Copy-Compare" for number family combined with reinforced timed-trials on the accuracy and fluency of addition and subtraction facts. Annual Conference of Applied Behavior Analysis International, Denver, USA.
村松菜里沙・片山順一	2011.5	課題非関連位置に現れる情動刺激による注意捕捉: ERP P3を指標とした検討. 第29回日本生理心理学会大会 (高知大学).
森本文人・片山順一・八木昭	2011.5	非標的P3が反映する注意の時間的推移. 第29回日本生理心理学会大会 (高知大

玉越勢治・溝部光希・箕浦菜々子・片山順一・八木昭宏	2011.5	MMNが反映する聴覚時間統合窓の時間長の検討. 第29回日本生理心理学会大会(高知大学).
木村司・早川友恵	2011.5	事象関連電位を指標とした視覚と体性感覚の連合学習の検討. 第29回日本生理心理学会大会(高知大学).
杉本史恵・野村亜弓・片山順一	2011.5	P300を指標とした無関連プローブ法の検討—肩への電気刺激によるゲーム課題中の注意配分量の評価—. 第29回日本生理心理学会大会(高知大学).
箕浦菜々子・玉越勢治・片山順一	2011.5	刺激役割の交替に伴うMMNの非象対称変化: 持続時間の異なる音刺激対を用いて. 第29回日本生理心理学会大会(高知大学).
大平英樹・松永昌宏・市川奈穂・木村健太・村上裕樹・大	2011.5	交感神経活動が意思決定に及ぼす影響. 第29回日本生理心理学会(高知大学).

## 2010年度

石曉玲	2011.3	ソーシャル・サポートは母親のディストレスを軽減するのか—日中比較—. 日本発達心理学会第22回大会(東京学芸大学).
山本直樹・内海章・藤本清・安部伸治・松尾典義	2011.3	視覚特性を考慮した車載表示装置の視線運動輝度制御. 映像情報メディア学会ヒューマンインフォメーション研究会(東京工科大学).
Okinaka, T., & Ukita, J.	2011.3	The modified Stroop task in the detection of concealed information. The 9th Tsukuba International Conference on Memory, Tokyo, Japan.
Komatsu, T., & Sato, N.	2011.1	How does facial expression influence the spatial attention triggered by gaze direction? Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, Tohoku University, Japan.
佐藤暢哉	2010.12	ナビゲーションの脳内メカニズムとエピソード記憶. 第6回犬山比較社会認知シンポジウム(京都大学霊長類研究所).
伊藤直・平井啓・塩崎麻里子・本岡寛子・和田奈緒子・	2010.12	がん患者の心配による支援度評価尺度の開発. 第36回日本行動療法学会(愛知県産業労働センター).
吉田沙有佳・松見淳子	2010.12	通常学級に在籍する小学1年生の大きな声を出す行動に対する機能的アセスメント. 第36回日本行動療法学会(愛知県産業労働センター).
鈴木ひみこ・米山直樹	2010.12	保育園における自閉症児の生活スキル獲得のための行動コンサルテーション—保育士の介入整合性の検討を中心に—. 日本行動療法学会第36回大会(愛知県産業労働センター).
Okinaka, T., & Shimazaki, T.	2010.12	A behavior analytic approach to illegal parking of bicycles & motorcycles using feedback & prompts. First South East Asian ABA Conference, Bangalore, India.
西山亮二	2010.11	音韻類似効果における構音過程の関与. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
阪本修平・松見淳子	2010.11	小学生の休み時間における「遊び行動」の観察—特別な支援が必要な児童と必要ない児童との比較—. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2010.11	ヒトの随伴性学習における潜在制止の文脈特異性. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
山下恵利・松見淳子	2010.11	自己決定の有無と課題の難易度が内発的動機づけに及ぼす影響について. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
野口美幸・佐藤寛・松見淳子	2010.11	子どもの社会的問題解決、怒り感情と攻撃的行動との関連. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
Minoura, N., Tamakoshi, S., & Katayama, J.	2010.10	Sound representations are time-compressed in sensory memory: evidence from MMN. The 50th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research,
Sugimoto, F., Ishii, K., Katayama, J., & Yagi, A.	2010.10	High self-esteem leads attention to positive information. The 50th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research, Oregon, USA.
Morimoto, F., Goto, M., Katayama, J., Niida, S., & Yagi, A.	2010.10	The temporal change in attention to deviant events: evidence from ERP P3s. The 50th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research, Portland, Oregon, USA.
Okinaka, T., & Shimazaki, T.	2010.10	The effects of prompting and reinforcement on safe behavior of bicycle and motorcycle riders on a sidewalk. The 1st International Conference on Accident Prevention, Busan, Korea.
Tamakoshi, S.	2010.10	The mismatch negativity and N1 related to gap or omission. The 29th International Congress of Clinical Neurophysiology, Kobe, Japan.
玉越勢治・島井哲志・八木昭	2010.10	炎の生理心理学的効果の検討. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
箕浦菜々子・玉越勢治・片山順一・八木昭宏	2010.10	感覚記憶における聴覚刺激欠落の時間符号化について—MMNを指標として—. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
小松文洋・八木昭宏	2010.10	個人の情動情報処理時間と眼球運動系の関係について—サッカード軌道湾曲を指標として—. 関西心理学会第122回大会(兵庫医療大学).
堀麻佑子・嶋崎恒雄	2010.10	ヒトはなぜ自由選択場面を好むのか—選択肢の提示数の観点から—. 日本行動分析学会第28回年次大会(神戸親和女子大学).
田中善大・三田村仰・野田航・馬場ちはる・嶋崎恒雄・松	2010.10	行動的支援の研修プログラムが主任保育士の支援行動に及ぼす効果の検討. 日本行動分析学会第28回年次大会(神戸親和女子大学).
中島定彦	2010.10	行動分析家が人を対象とした研究ならびに臨床的活動を実践するときに必要な倫理的配慮. 日本行動分析学会第28回大会(神戸親和女子大学). (学会企画シンポ
沖中武・嶋崎恒雄	2010.10	自転車・バイク利用者の安全行動に関する施策の効果検討—大学キャンパスにおける歩道上の走行行為を対象として—. 日本行動分析学会第28回年次大会(神戸親和女子大学).
橋祐子・嶋崎恒雄	2010.10	アーチェリーにおける行動的コーチングの効果の検討. 日本行動分析学会第28回年次大会(神戸親和女子大学).

水澤慶緒里・中澤清	2010.10	成人期の過剰適応尺度の作成—社会人を対象とした項目の収集,精選と信頼性の検討—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
保元駿・中澤清	2010.10	大学生の友人関係における同性・異性の2側面について—信頼感・依存欲求からの検討—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
小倉諒子・成田健一	2010.10	怒りと精神的健康を媒介する情動知能—コントロール感の観点から—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
中村春香・成田健一	2010.10	嗜癖者の精神的健康に影響する特性要因の検討—非合理傾向と衝動/強迫性の観点から—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
佐伯直子・成田健一	2010.10	シャードンフロイデ喚起の前提条件となるネガティブ感情について—不幸の深刻さ,不幸の起きた責任との関連より—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
福田哲也・成田健一	2010.10	対人コミュニケーション効力感の生涯発達—シャイネス・情動知能を指標とした効力感の形成要因—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
箕浦有希久・成田健一	2010.10	他者軽視傾向と精神的健康の関連—Multimotive Modelの観点から—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
小松丈洋・八木昭宏	2010.10	反射的サッカーと随意的サッカーにおける情動情報処理の影響. 日本基礎心理学会第29回大会(関西学院大学).
野田航	2010.10	行動の流暢性研究におけるTranslational Research. 第28回日本行動分析学会(神戸親和女子大学).
野田航・松見淳子	2010.10	小学生の掛け算スキルの正確性と流暢性に及ぼす「3C学習法」と目標設定の効果. 第28回日本行動分析学会(神戸親和女子大学).
鈴木ひみこ・野田航・米山直樹・松見淳子	2010.10	小学5年生の漢字書字スキルに及ぼす「3C学習法」の効果. 第28回日本行動分析学会(神戸親和女子大学).
田中善大・三田村仰・野田航・馬場ちはる・嶋崎恒雄・松	2010.10	行動的支援の研修プログラムが主任保育士の支援行動に及ぼす効果の検討. 第28回日本行動分析学会(神戸親和女子大学).
水澤慶緒里・中澤清	2010.10	成人期の過剰適応尺度の作成—社会人を対象とした項目の収集, 精選と信頼性の検討—. 日本パーソナリティ心理学会第19回大会(慶應義塾大学).
安田傑	2010.10	色彩と形態の利用性が, 色彩反応の産出に与える影響. 日本ロールシャッハ学会第14回大会(帝塚山学院大学).
北村元隆・北村佳久	2010.9	無条件性ならびに条件性侵害受容性疼痛反応に対する選好性または嫌悪性嗅覚刺激の効果. 日本緩和医療薬学会年会第4回(鹿児島市).
北村元隆	2010.9	無条件性ならびに条件性疼痛反応に対する選好性香りの効果. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
和田奈緒子・伊藤直・塩崎麻里子・吉崎亜里香・佐々木淳・本岡寛子・平井啓・明智	2010.9	乳がん患者への問題解決療法についてのプログラム評価及び自身の変化についての評価に関する研究. 第10回日本認知療法学会(愛知県産業労働センター).
本岡寛子・平井啓・吉崎亜里香・伊藤直・和田奈緒子・森岡久直・猪澤歩・福井直之	2010.9	問題解決療法を基盤とした復職支援プログラム作成の試み. 第10回日本認知療法学会(愛知県産業労働センター).
川合隆嗣・中島定彦	2010.9	オカダンゴムシの交替性転向反応—通路長・転向回数・転向角度の影響—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
松村真宏・三浦麻子・金明哲	2010.9	TinyTextMiner (TTM) の理念と使い方. 2010年度統計関連学会連合大会(早稲田大人は知識共有コミュニティに何を求めているのか(1)—メディア機能による検討—. 日本社会心理学会第51回大会(広島大学).
川浦康至・三浦麻子	2010.9	人は知識共有コミュニティに何を求めているのか(2)—自由記述のテキストマイニング—. 日本社会心理学会第51回大会(広島大学).
三浦麻子・川浦康至	2010.9	社会心理学の明日—次世代の挑戦. 日本社会心理学会第51回大会(広島大学). (シンポジウム指定討論)
三浦麻子	2010.9	研究知見の社会還元はどうあるべきか?—“社会と社会心理学”の微妙な関係—. 日本社会心理学会第51回大会(広島大学). (自主企画ワークショップ企画・話題提
谷口淳一・小林知博・三浦麻子・金政祐司・清水裕士・石	2010.9	夫婦関係での自己呈示が関係の質に与える影響. 日本社会心理学会第51回大会(広島大学).
木村昌紀・三浦麻子・大賀暁・國枝和雄・山田敬嗣	2010.9	ノンバーバル情報を活用した個人特性情報の取得に関する研究—質問紙の回答プロセスに注目して—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
三浦麻子	2010.9	SEMに関する最近の話題から—理論と応用—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学). (ワークショップ指定討論)
中島定彦	2010.9	動物学習研究の方法論を考える—動物学習研究事始—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学). (ワークショップ企画・司会)
大竹恵子・加藤健二	2010.9	食に対する感じ方と主観的幸福感. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2010.9	因果学習における手がかり競合の非対称性について. 日本認知科学会第27回大会(神戸大学).
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2010.9	単純な因果構造の学習における共変動と時間順序. 日本認知科学会第27回大会(神戸大学).
沖中武	2010.9	被害アピールが不法駐輪行動に与える影響—写真付きポスターによる他者被害の提示—. 日本応用心理学会第77回大会(京都大学).
水澤慶緒里・土肥伊都子	2010.9	ロールシャッハ・テストにおけるジェンダー・パーソナリティの研究. 日本応用心理学会第77回大会(京都大学).
山田幸恵・高橋伸彰・岡田齊・野村忍	2010.9	群の中の顔課題における対象者特性の影響2: 自閉傾向と表情認知の関連. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
高橋伸彰・柏野牧夫・廣中直	2010.9	ラットにおける超音波の鳴声とその生物学的意義. 日本心理学会第74回大会(大阪
鈴木まや・荒尾真理・八木昭	2010.9	においによる感性満腹感の般化. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).

堀麻佑子・嶋崎恒雄	2010.9	ヒトはなぜ自由選択場面を好むのか—選択可能性の観点から—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2010.9	意思決定における因果推論—選択の因果モデル理論の検証—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
沖中武・浮田潤	2010.9	反応時間による虚偽検出—aIATを用いて—. 日本心理学会第74回大会(大阪大
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2010.9	ヒトの随伴性学習における潜在制止の実験的検討—付加刺激の役割に着目して—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
伊藤直	2010.9	行動活性化における活動記録票の有効性. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
伊藤直・松見淳子	2010.9	大学生の抑うつ症状と日常活動に対する情動的反応との関係: 日記法による検討. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
野田航・松見淳子	2010.9	小学2年生の基礎的計算スキルの変化: 基礎的計算スキルと応用的計算スキルの流暢性に注目して. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
大島海里・松見淳子	2010.9	小学校の休み時間における遊びの内容と社会的スキルの関係について. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
木戸盛年・嶋崎恒雄	2010.9	病的賭博の予防的介入に向けて—病的賭博者のスクリーニングテスト短縮版 SOGS-J作成の試み—. 日本心理学会第74回大会(大阪大学).
木戸盛年	2010.9	語りで支え合う(2). 日本心理学会第74回大会(大阪大学). (ワークショップ話題提供)
Chin, H., Tomonaga, M., Nakajima, S., Uwano, Y., & Yoshii, M.	2010.9	Mirror self-recognition in three cetacean species. Cop10 Partnership Project, The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The message from animals", Nagoya Kowan Kaikan, Japan.
Saito, M., & Shimazaki, T.	2010.8	Causal reasoning in decision making: A test of causal model theory of choice. The 32nd Annual Conference of the Cognitive Science Society, Oregon, USA.
橋本あや・中島定彦	2010.8	ラットの運動性味覚嫌悪条件づけにおける文脈制御—消去処置による制御メカニズムの検証—. 日本動物心理学会第70回大会(帝京大学).
陳香純・友永雅己・中島定彦・上野友香・吉井誠	2010.8	マイルカ上科3種(バンドウイルカ、カマイルカ、ペルーガ)における自己鏡映像の認知. 日本動物心理学会第70回大会(帝京大学).
中島定彦・井上尚亮・永石高敏	2010.8	事象持続時間の弁別学習におけるラットとデグーの比較. 日本動物心理学会第70回大会(帝京大学).
佐藤暢哉・川合隆嗣	2010.8	放射状迷路におけるラットのエピソード的記憶. 日本動物心理学会第70回大会(帝京大学).
三浦麻子	2010.8	オンラインコミュニティ利用者の行動と意識. 日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会(東京国際大学).
川合隆嗣・中島定彦	2010.8	交替性転向反応における通路長・転向方向・転向回数の影響—オカダンゴムシを用いて—. 日本動物心理学会第70回大会(帝京大学).
Nakajima, S., Nakagawa, Y., Shishihara, K.	2010.7	Renewal of signalled avoidance in rats. The 4th International Meeting of the Australian Learning Group, Darwin, Australia.
Kido, M., & Shimazaki, T.	2010.7	The difference of decision making pattern in Iowa Gambling Task between Japanese pathological gamblers and Japanese university students. The 27th International Congress of Applied Psychology, Melbourne, Australia.
Okinaka, T., & Shimazaki, T.	2010.7	The effect of providing information on increasing users of parking lots for bicycles: A single case study on a Japanese university campus. The 27th International Congress of Applied Psychology, Melbourne, Australia.
Nakajima, S., Takamatsu, Y., Fukuoka, T., & Omori, Y.	2010.7	Spontaneous blink rates of domestic dogs: A preliminary report. The 2nd Canine Science Forum, Vienna, Austria.
Masaki, Y., Shimazaki, T., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.7	Close relationships and subjective well-being in Japan: Testing a model of relationship-specific attachment styles in young adults. The 20th Congress of the International Association for Cross Cultural Psychology, Melbourne, Australia.
Greenberg, J., Ehlers, S., Spence, J., & Tanaka-Matsumi, J., & Tuschen-	2010.6	Navigating through the labyrinth: A discussion with the pioneers on the challenges and advancement of women across the world. 2010 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Boston, U.S.A. (パネルディスカッション)
Ito, N., Murata, A., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.6	Study of a cross-cultural generality of the behavioral model of depression: One-day self-monitoring study in Japanese undergraduate students. 2010 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Boston, U.S.A.
Fujita, M., Hirayama, S., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.6	Teaching clock time reading skills for an autistic woman with severe intellectual disability. 2010 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Boston,
Takeshima, K., Oshima, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.6	Relationships between depressive symptoms and interpersonal factors in Japanese children. 2010 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Boston,
Mitamura, T., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.6	Assertiveness as a cultural attribute: Is assertiveness suitable for Japanese? 2010 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Boston, U.S.A.
Ono, H., Fukuyama, S., Shi, X., Fukui, Y., Marten, A., & Maruyama, A.	2010.6	A retrospective medical chart review of the effectiveness of Japanese traditional herbal medicines (kamikihito and kamishoyosan) in treatment of mild depression. The 27th Congress of the CINP (International College of Neuropsychopharmacology), Hong Kong.
小野久江・弓場菜穂子・竹谷怜子・野中由花・泉七恵・辻本江美・後藤涼子・浦田亜樹・高木亮・藤井俊哉・湯浅福山幸子・小野久江・福井優子・磯部直彦・松田裕子・円	2010.6	ディスチミア親和型うつ病に対する大学生の意識調査. 第7回日本うつ病学会総会(石川県立音楽堂).
	2010.6	限定された状況でのみ症状を訴えながらも「うつ病」であると自ら主張した患者の病状とBAUMの特徴. 第7回日本うつ病学会総会(石川県立音楽堂).

大賀暁・國枝和雄・山田敬嗣・木村昌紀・三浦麻子	2010.6	質問紙回答プロセスを活用した個人特性取得方法. 人工知能学会第24回全国大会(長崎ブリックホール)
佐藤暢哉	2010.5	ナビゲーションの脳内メカニズム: ルート知識の脳内表象. 大阪大学グローバルCOEプログラム「認知脳理解に基づく未来工学創成」第3回シンポジウム「自己制御の脳科学」(講演)(大阪大学).
小松丈洋・武田裕司・八木昭宏	2010.5	目は快画像を避ける—サッカー軌道と情動価処理の関係—. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
玉越勢治・島井哲志・八木昭宏	2010.5	ガス暖炉のポジティブな効果に関する研究 まばたきを指標として. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
箕浦菜々子・玉越勢治・片山順一・八木昭宏	2010.5	感覚記憶における聴覚情報の圧縮現象について: MMNを指標として. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
山崎圭子・片山順一・室橋春光	2010.5	心的イメージと視覚的短期記憶保持時の処理過程の比較. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
片山順一・森本文人・新井田統・八木昭宏	2010.5	逸脱事象に対する注意の時間的推移: ERP P3を指標とした検討. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
荒尾真理・鈴木まや・八木昭宏	2010.5	嗅覚刺激の吸入様式の違いがニオイの知覚に及ぼす影響. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
森本文人・八木昭宏	2010.5	高速逐次視覚呈示時の注意の推移. 第28回日本生理心理学会大会(茨城大学).
Noda, W., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.5	Application of three-tiered instruction model for Japanese 2nd grade students to improve multiplication fact performance. The 36th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, San Antonio, USA.
Tanaka, Y., Mitamura, T., Noda, W., Baba, C., Shimazaki, T., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.5	Evaluation of behavior management workshops for preschool teachers based on applied behavior analysis in Japan. The 36th Annual Convention of the Association for Behavioral Analysis International, San Antonio, USA.
Saito, M., & Shimazaki, T.	2010.5	Covariation vs. temporal order in human causal structure learning. The 15th Biennial Scientific Meeting of the International Society for Comparative Psychology, Awaji, Japan.
Nagaishi, T., & Nakajima, S.	2010.5	Summation of latent inhibition and overshadowing in human predictive learning. The 15th Biennial Scientific Meeting of the International Society for Comparative Psychology, Awaji Island, Japan.
Numata, K., & Shimazaki, T.	2010.5	Predictive judgment modulates cue competition in human contingency learning: Evidence from overshadowing. The 15th Biennial Scientific Meeting of the International Society for Comparative Psychology, Awaji, Japan.
Numata, K., & Shimazaki, T.	2010.5	Avoidance response affects judgment of cue-outcome contingency. The 36th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, San Antonio, USA.
Hori, M., & Shimazaki, T.	2010.5	Effects of the number of alternatives in free-choice preference. The 36th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, San Antonio, USA.
Sugimoto, F., & Yagi, A.	2010.5	Attentional modulation in perception of speed occurs in the first motion-processing stage. Vision Science Society 10th Annual Meeting, Naples, USA.
Yamamoto, N., Fujimoto, K., & Yagi, A.	2010.5	View-point dependent representation of objects in peripheral visual fields. Vision Sciences Society 10th Annual Meeting, Naples, USA.
Yamazaki, K., & Katayama, J.	2010.4	The pure effect of imagery generation on the event-related brain potential. Cognitive Neuroscience Society 2010 Annual Meeting, Montreal, Canada.

## 2009年度

Katsurada, E.	2010.3	Contemporary Japanese university students' gender-roles: Attitudes and personality traits. The 13th Biennial Meeting of the Society for Research on Adolescence, Philadelphia, USA.
Okinaka, T., & Ukita, J.	2010.3	Detecting autobiographical memory using aIAT. The 8th Tsukuba International Conference on Memory, Tsukuba, Japan.
桂田恵美子・赤澤淳子・東海林麗香・中見仁美・杉原洋子	2010.3	三世代家族の問題と適応—その光と影—. 日本発達心理学会第21回大会(ラウンドテーブル企画・指定討論者)(神戸国際会議場).
石曉玲・桂田恵美子	2010.3	ジェンダー観からみた母親のディストレス. 日本発達心理学会第21回大会(神戸国際会議場).
荒尾真理・鈴木まや・八木昭宏	2010.3	The effect of color on olfactory perception in mixture odor and single odorant. 2009年度日本心理学会味嗅覚と行動に関する研究会((独)つくば産業技術総合研究所).
田中善大・鈴木康啓・嶋崎恒雄・松見淳子	2010.3	応用行動分析にもとづく主任保育士対象の研修プログラムの効果検討. 日本行動科学学会第26回ウィンターカンファレンス(北海道朝陽リゾートホテル).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2010.3	ヒトの随伴性学習における復元効果の実験的検討. 日本行動科学学会第26回ウィンターカンファレンス(北海道朝陽リゾートホテル).
Hitokoto, H., Murabe, T., Narita, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2010.1	Through time and space: Variation of individualism-collectivism in Japan. Society for Personality and Social Psychology 2010 Meeting, Las Vegas, USA.
山本直樹・藤本清・松尾典義・八木昭宏	2010.1	周辺視野におけるオブジェクト形状知覚の異方性. 日本視覚学会2010年冬季大会(工学院大学).
今西明・雄山真弓	2009.12	ストレス負荷時における指尖容積脈波の基線変化成分の有無がリアプノフ指数に与える影響. 平成21年度日本人間工学会関西支部大会(奈良女子大学).
杉本史恵・八木昭宏	2009.12	空間注意による知覚速度の変化が生じる処理段階の検討. 日本基礎心理学会第28回大会(日本女子大学).

玉越勢治・山本直樹・森本文人・長江新平・市場博幸・磯	2009.12	ロッキングチェアのリラックス効果に関する生理心理学的検討. 日本人間工学会関西支部平成21年度支部大会(奈良女子大学).
Baba, C., & Tanaka-Matsumi, J.	2009.11	Antecedent-based functional assessment and intervention of off-task behavior of a child in the regular classroom. The 43rd Annual Convention of Association for Behavioral and Cognitive Therapies, New York, USA.
Ito, N., Hirai, K., Motooka, H., Wada, N., Yoshizaki, A., Koyama, A., Tokoro, A.,	2009.11	Development of cancer worry impact inventory(CWII) in Japanese cancer patients. The 43rd Annual Convention of Association for Behavioral and Cognitive Therapies, New York, USA.
Kuramochi, M., Ono, H., Tokimoto, T., Fujikoshi, S., Fuchigami, Y., & Takahashi, M.	2009.11	Prospective observational study in acute schizophrenic patients treated with olanzapine in Japan. The 1st Meeting of the Asian College of Neuropsychopharmacology, Kyoto, Japan.
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2009.11	ヒトの随伴性学習における潜在制止の実験的検討. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
西崎晃輔・嶋崎恒雄	2009.11	地域通貨の利用回数増加のための介入方法の検討. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
沖中武・浮田潤	2009.11	反応時間を指標とした虚偽検出手法の検討—aIAT (autobiographical Implicit Association Test) を用いて—. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
永石高敏	2009.11	RPG作成ソフトの認知心理学実験への適用. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
小倉諒子・成田健一	2009.11	特性怒りの生涯発達—精神的健康の諸側面に関する横断研究(2)—. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
福田哲也・成田健一	2009.11	対人コミュニケーション効力感の生涯発達—精神的健康の諸側面に関する横断研究(1)—. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
正木陽子・嶋崎恒雄・松見淳子	2009.11	成人の愛着スタイルと主観的幸福感および、ソーシャル・サポートの関連. 関西心理学会第121回大会(大阪人間科学大学).
安田傑	2009.11	色彩利用性・形態利用性の2次元モデルに基づく「色・形問題」の検討—主要5因子理論の観点から—. 日本パーソナリティ心理学会第18回大会(川崎医療福祉大学).
伊藤直	2009.11	大学生の抑うつ気分と日々の出来事との関係: 日記法(1日)による検討. 日本パーソナリティ心理学会第18回大会(川崎医療福祉大学).
三浦麻子	2009.11	集団の創造的活動に関する社会心理学的研究. NECまほろばワークショップ(ワークショップ話題提供)(けいはんなプラザ).
松見淳子	2009.10	コミュニケーション・モードとしてのケース・フォーミュレーション(2). 第35回日本行動療法学会(自主企画シンポジウム指定討論)(幕張メッセ国際会議場).
馬場ちはる・松見淳子	2009.10	通常学級における教示非従事行動を示す児童への機能的アセスメントに基づく介入. 第35回日本行動療法学会(幕張メッセ国際会議場).
伊藤直・松見淳子	2009.10	大学生の抑うつ気分と日常活動の快・不快度との関係: セルフモニタリング法による検討. 第35回日本行動療法学会(幕張メッセ国際会議場).
竹島克典・松見淳子	2009.10	児童の抑うつと心理社会的要因との関連—児童の対人関係および学業に焦点を当てた検討—. 第35回日本行動療法学会大会(幕張メッセ国際会議場).
藤田昌也・平山哲・松見淳子	2009.10	最重度知的障害を伴う自閉症のある成人に対する時計の読みの指導. 日本行動療法学会第35回大会(幕張メッセ国際会議場).
篠崎昌子・遠藤やよみ・小関俊祐・加藤美朗・大月友・加藤美朗・堤俊彦・小関俊祐・佐々木和義・原田徳蔵	2009.10	地域における幼児版Teacher's Trainingの普及. 日本行動療法学会第35回大会(幕張メッセ国際会議場).
三田村仰・松見淳子	2009.10	発達障害児における登校・留守番行動の形成—機能的アセスメントによる母子コミュニケーションの分析を基に—. 第35回日本行動療法学会大会(幕張メッセ国際会議場).
三田村仰・松見淳子	2009.10	発達障害児の保護者のための学校コミュニケーション・トレーニングの効果—保護者から教師への感謝発言の測定—. 日本認知療法学会第9回大会(幕張メッセ国際会議場).
金井菜穂子・平井啓・松向寺真彩子・和田奈緒子・伊藤直・吉崎亜里香・本岡寛子・	2009.10	がん患者へのグループ問題解決療法に関する研究. 第22回日本サイコオンコロジー学会総会(メルパルクHIROSHIMA).
三浦麻子	2009.10	歴史を踏まえ、この先に生きる社会心理学研究の展開を目指すために. 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会(シンポジウム話題提供)(大阪大学).
大槻一貴・三浦麻子・大坊郁夫	2009.10	2者間対話場面における話題と聞き手の姿勢が話者に与える影響. 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会(大阪大学).
小倉加奈代・楠見孝・三浦麻子	2009.10	オンライン仮想空間を利用したがん患者のコミュニティ形成: 発言行動分析に基づいたコミュニティ成熟度の検討. 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会(大阪大学).
三浦麻子・楠見孝・小倉加奈代	2009.10	がん・アトピー性皮膚炎患者・家族のインターネット行動(2): インターネット上の情報への期待に関するテキストマイニングによる検討. 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会(大阪大学).
楠見孝・三浦麻子・小倉加奈代	2009.10	がん・アトピー性皮膚炎患者・家族のインターネット行動(1): 批判的思考が情報信頼性評価と病気への適応に及ぼす効果. 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会(大阪大学).
北村元隆	2009.10	新規な条件性侵害受容性疼痛反応におよぼすacetaminophen, fentanyl, およびfluboxamine maleateの影響. 日本緩和医療薬学会第3回年会(パシフィコ横浜会議センター).

Nishizaki, K., & Shimazaki, T.	2009.10	Effect measurement of community currency systems with social support scale. The 7th European Congress of Community Psychology, Paris, France.
Morimoto, F., & Yagi, A.	2009.10	Why is the P3 latency during the attentional blink delayed? The 49th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research, Berlin, Germany.
Nakama-Kitamura, J.	2009.10	The effects of acetaminophen, fentanyl, fluboxamine and gabapentin on a novel conditioned nociceptive response in mice. The 1st Meeting of the Asian College of Neuropsychopharmacology, Kyoto International Conference Center.
Numata, K., & Shimazaki, T.	2009.9	Does avoidance response correspond with predictive judgment in human contingency learning? The 21st Congress of the Spanish Society for Comparative Psychology International Meeting, Salamanca, Spain.
下司美奈・加藤美朗・佐々木磯部直彦・小野久江・前田志壽代・森川英子・村田佳子・藤田勢津子・住田幾子・久場裕子・保坂直昭・円山アンナ	2009.9	就学前の発達障害児の親子プログラムの試み. 日本特殊教育学会(宇都宮大学).
森川英子・小野久江・高山聡美・小福秀子・宮崎亜希子・中西美和・東千恵・岸本通彦・谷口典男・円山アンナ・久	2009.9	関西学院大学教職員のメンタルヘルスの自覚症状について. 第47回全国大学保健管理研究集会(札幌コンベンションセンター).
鈴木まや・八木昭宏	2009.9	付香した偽薬による事前の疑似体験が痛み緩和に及ぼす効果. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
北村元隆・鈴木まや	2009.9	条件性疼痛の伝達と制御に関する考察. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
鈴木まや	2009.9	日本心理学会味嗅覚と行動に関する研究会企画 味嗅覚の記憶—おふくろの味、おやじの匂い—. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
海野俊平・佐藤暢哉・泰羅雅登	2009.9	Response properties of neurons in the monkey parahippocampal cortex during the navigation through the virtual environment. 第32回日本神経科学大会(名古屋国際会議場).
海野俊平・佐藤暢哉・泰羅雅登	2009.9	ナビゲーション課題遂行時のサル海馬傍回ニューロンの活動. 第32回日本神経科学大会(名古屋国際会議場).
小倉加奈代・楠見孝・三浦麻子	2009.9	テキストチャット対話の発言行動に着目したコミュニティ形成過程分析方法の検討: オンライン仮想空間を利用したがん患者サポートグループの事例を通じて. 日本認知科学学会第26回大会(慶應義塾大学).
楠見孝・小倉加奈代・三浦麻子	2009.9	オンライン仮想空間を利用したがん患者サポートグループ: テキストマイニングに基づく社会的サポートの分析. 日本認知科学学会第26回大会(慶應義塾大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2009.9	ヒトの随伴性学習における隠蔽現象の実験的検討. 日本認知科学学会第26回大会(慶應義塾大学).
荒尾真理・鈴木まや・八木昭宏	2009.9	混合臭の割合推定は色によって異なる—色を手がかりとした嗅覚における選択的注意の検討—. 日本味と匂い学会第43回大会(旭川市民文化会館).
丹野義彦・松見淳子・伊藤絵美	2009.9	認知行動療法をいかに臨床現場に取り入れるか. 日本心理臨床学会第28回秋季大会(自主シンポジウム企画)(東京国際フォーラム).
木戸盛年・嶋崎恒雄	2009.9	我が国におけるギャンブル依存症の現状と課題. 平成21年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(パシフィコ横浜).
中島定彦	2009.9	味覚溶液プールでの水泳によって生じるラットの味覚嫌悪学習. 日本動物心理学会第69回大会(岐阜大学).
三田村仰	2009.8	アサーションの文脈依存性—臨床行動分析からみた適切な自己主張—. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
松見淳子・大対香奈子	2009.8	児童生徒のソーシャルスキルと学校適応～アセスメントと介入の実証研究. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ企画・司会)(立命館大学).
松見淳子	2009.8	カウンセリング対話を科学する(3). —カウンセリングにおける専門性とは— 日本心理学会第73回大会(ワークショップ指定討論)(立命館大学).
玉越勢治・島井哲志・八木昭宏	2009.8	ガス暖炉のポジティブな心理生理的効果に関する研究. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
安田傑	2009.8	「色・形問題」における測定モデルの再考. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
米山直樹	2009.8	「社会性に問題のある児童の理解と対応～アスペルガー症候群を有する児童のグループ介入の試み～」. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ指定討論)(立命館大学).
岡島泰三・中見仁美・桂田恵美子	2009.8	青年期のアタッチメントスタイル・家族関係とのkの関係について. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
永石高敏・中島定彦	2009.8	ヒトを対象とした因果推論における潜在制止と隠蔽の検討. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
中見仁美・桂田恵美子	2009.8	児童期の父親とのかかわりと青年期の家族関係—Family System Testを用いて—. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
三浦麻子・川浦康至	2009.8	知識共有コミュニティを創り出す人たち(7) 回答投稿という援助行動を支える心理的過程. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
成田健一・坂口晴香	2009.8	高齢者の情動知能—J-WLEIS(日本語版Wong & Law Emotional Intelligence Scale)の高齢者への適用—. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
水澤慶緒里・中澤清	2009.8	人間関係における過剰適応尺度の作成—女子学生を対象とした尺度作成と信頼性・妥当性の検討—. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).
沖中武・浮田潤	2009.8	誤誘導情報に対する認知面接の効果の検討 ～テキストによる認知的技法の提示～. 日本心理学会第73回大会(立命館大学).

木戸盛年	2009.8	病的賭博の予防的介入に向けて—ギャンブル課題におけるGAメンバーと大学生の選択行動の相違について—. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
北村元隆・鈴木まや	2009.8	条件性疼痛の伝達と制御に関する考察. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
野田航	2009.8	児童生徒のソーシャルスキルと学校適応～アセスメントと介入の実証研究. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
伊藤直・松見淳子	2009.8	大学生の抑うつ気分と日常生活における活動との関係: セルフモニタリング法による検討. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
箕浦有希久・成田健一	2009.8	所属欲求は自尊心と他者軽視傾向の関係を媒介するか? 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
斎藤元幸	2009.8	因果推論における構造の判断と強度の判断. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
木戸盛年	2009.8	ギャンブル依存と自助グループの現状と今後の課題. 「語りで支えあう」. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ話題提供) (立命館大学).
佐藤暢哉	2009.8	ナビゲーションに関連したサル頭頂葉内側部ニューロン. 「空間情報の獲得と表現」. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ話題提供) (立命館大学).
中島定彦	2009.8	動物学習研究の技法を考える. 「動物学習研究の方法論を考える—古典的条件づけの新しい研究手法」. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ企画・話題提供) (立命館大学).
中島定彦	2009.8	イヌは飼い主に似ているか? 「イヌとヒト、ヒトとイヌ」. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ企画・話題提供) (立命館大学).
大対香奈子	2009.8	子どもの社会的コンピテンスと学校適応. 日本心理学会第73回大会(小講演) (立命館大学).
今西明・塩見格一・雄山真弓	2009.8	長時間にわたる夜間トラック運転時におけるドライバーの脈拍数の検討. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
堤俊彦・嶋崎まゆみ・加藤美朗・永谷文代	2009.8	社会性に問題のある児童の理解と対応. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
本岡寛子・平井啓・塩崎麻里子・伊藤直・吉崎亜里香・和田奈緒子・平井啓・本岡寛子・塩崎麻里子・伊藤直・荒三田村仰	2009.8	大学生グループを対象とした問題解決療法. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
和田奈緒子・平井啓・本岡寛子・塩崎麻里子・伊藤直・荒三田村仰	2009.8	慢性疾患心配対処能力尺度の作成と妥当性の検討. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
三田村仰	2009.8	文脈的アサーション・トレーニング. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
三田村仰・松見淳子	2009.8	主張の正当性の違いによる自己主張方略の変化—アサーションの文脈依存性—. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
森本文人・八木昭宏	2009.8	高速逐次系列課題における刺激呈示速度の変化. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
沼田恵太郎	2009.8	ヒトの随伴性学習における行動指標と評定の不一致について. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
田中善大	2009.8	強化スケジュール下の非言語行動に自己ルールが与える影響の実験的検討—自己ルールの形成方法に注目して—. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
西崎晃輔	2009.8	ケイタイ地域通貨システム「ラブ」の取り組み—心理学の観点から見た地域通貨—. 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
大対香奈子・松見淳子	2009.8	「児童生徒のソーシャルスキルと学校適応～アセスメントと介入の実証研究～」. 日本心理学会第73回大会(ワークショップ企画) (立命館大学).
松見淳子	2009.8	ワークショップ・カウンセリング対話を科学する(3).—カウンセリングにおける専門性とは—(指定討論). 日本心理学会第73回大会 (立命館大学).
倉持基樹・小野久江・時本敏充・藤越慎治・淵上裕介・高橋道宏	2009.8	急性期統合失調症患者におけるolanzapineの開始時1日投与量と重症度、安全性についての検討—製造販売後特定使用成績調査の追加解析結果から—. 第105回日本精神神経学会学術総会 (神戸国際会議場).
Kido, M., & Shimazaki, T.	2009.8	An investigation on the actual situation of the addictive behavior of Japanese university students. International Conference on Asia Pacific Psychology (ICAPP), Seoul, Korea.
Miura, A., & Kawaura, Y.	2009.8	Helping behavior in Cyberspace. The 6th Biennial Conference of International Academy of Intercultural Research, University of Hawai'i at Manoa, Honolulu, HI.
Hitokoto, H., Murae, T., Narita, K., & Tanaka-Matsumi, J.	2009.7	Through time and space: Variation of individual-collectivism in Japan. International Symposium on Socio-Ecological Approach to Cultural and Social Psychological Processes, Hokkaido, Japan.
Saito, M., & Shimazaki, T.	2009.7	Structure and strength in simple causal learning task. The 31st Annual Conference of the Cognitive Science Society, Amsterdam, Netherlands.
西崎晃輔・嶋崎恒雄	2009.7	報酬の遅延期間の違いにおける価値割引と学習行動に関する実験的研究. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).
鈴木ひみこ・米山直樹	2009.7	特別支援学校における知的障害児の問題行動に対する行動コンサルテーション. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).
堀麻佑子・嶋崎恒雄	2009.7	自由選択場面選好における選択肢の数の効果. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2009.7	ヒトの条件性回避における間隔DRHスケジュールの実験的検討. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).
沖中武・嶋崎恒雄	2009.7	環境操作による迷惑駐輪の防止方法の検討. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).
田中善大・嶋崎恒雄	2009.7	大学生のほめる行動とその効果の認識に関する調査—行動分析の知識との関連を通して—. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).
大松澤剛志・米山直樹	2009.7	自閉症児のタクト反応がマンド機能を有する条件～刺激等価性の枠組みを用いて～. 日本行動分析学会第27回年次大会 (筑波大学).

益田綾子・寺尾将彦・渡邊淳司・丸谷和史・八木昭宏	2009.7	Craik O' Brien Cornsweet効果を生じさせる輪郭線情報の処理レベルについての検討. 日本視覚学会2009年夏季大会 (京都工芸繊維大学).
土肥伊都子・水澤慶緒里	2009.7	ジェンダー・パーソナリティの多面的測定. 第360回関西社会心理学研究会 (神戸松蔭女子学院大学).
西崎晃輔・嶋崎恒雄	2009.6	地域通貨の効果測定—ソーシャルサポート尺度を用いた検討—. 日本コミュニティ心理学会第12回大会 (東北大学).
森本文人・八木昭宏	2009.6	複数モダリティへの3標的呈示事態における注意の瞬き現象. 人間工学会第50回記念大会 (産業技術総合研究所つくば中央).
玉越勢治・島井哲志・八木昭宏	2009.6	ガス暖炉の心理的効果に関する研究. 人間工学会第50回記念大会 (産業技術総合研究所つくば中央).
今西明・塩見格一・雄山真弓	2009.6	長時間にわたる夜間トラック運転時におけるドライバーの心身状態の評価—耳朶容積脈波のリアプノフ指数による検討—. 日本人間工学会第50回記念大会 (産業技術総合研究所).
森本文人・八木昭宏	2009.5	注意の瞬きにおけるP3潜時の変容—処理遅延の有無について—. 第27回日本生理心理学会大会 (同志社大学).
今西明・雄山真弓	2009.5	Phase Plane Plotを用いた末梢血管反応の評価—安静時および課題遂行時における検討—. 日本生理心理学会第27回大会 (同志社大学).
伊藤直	2009.5	手術後の早期肺癌患者における身体活動量と心理的適応との関係. 日本感情心理学会第17回大会 (立命館大学).
Noda, W., Otsui, K., Takeshima, K., Tanaka, Y., Mitamura, T., Ito, N., &	2009.5	Social skills training for Japanese adolescents with school maladjustment: Empirical results. The 35th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, Phoenix, USA.
Otsui, K., Noda, W., Hakoshima, Y., Inada, S., Fukui, T., & Tanaka-Matsumi,	2009.5	Social skills training for Japanese adolescents with School maladjustment: Program development. The 35th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, Phoenix, USA.
Tanaka, Y., Suzuki, Y., Shimazaki, T., & Tanaka-Matsumi, J.	2009.5	Effects of group-oriented contingency management on disruptive behavior of children in a regular classroom. The 35th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International, Phoenix, U.S.A.
Hori, M., & Shimazaki, T.	2009.5	Meta-choice in the positive and negative situation. The 35th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, Phoenix, USA.
Hitokoto, H., Uchida, Y., Norasakwnkit, V., & Tanaka-Matsumi, J.	2009.5	Construction of the Interdependent Happiness Scale: Cross-cultural and cross-generational comparisons. The 21st Annual Convention of Association for Psychological Science, San Francisco, USA.
Kimura, M., Katayama, J., Ohira, H., & Schröger, E.	2009.4	Two subcomponents of posterior deviant-related negativity reflecting refractory effect and memory-mismatch effect. (Workshop 1: Visual Mismatch Negativity (vMMN) ) MMN 09 Fifth Conference on Mismatch Negativity (MMN) and its Clinical and Scientific Applications, Budapest, Hungary.

## 2008年度

Chin, H., Nakajima, S., & Taki, M.	2009.3	Reaction of captive bottlenose dolphins to their mirror images. The 16th Annual International Conference on Comparative Cognition, Melbourne Beach, Florida,
Hashimoto, A., & Nakajima, S.	2009.3	Contextual control of rats' conditioned taste aversion based on wheel running. The 16th Annual International Conference on Comparative Cognition, Melbourne Beach, Florida, USA.
Nagaishi, T., Nakajima, S., & Nakanishi, M.	2009.3	Overshadowing of rats' conditioned taste aversion based on wheel-running. The 16th Annual International Conference on Comparative Cognition, Melbourne Beach, Florida, USA.
三田村仰・松見淳子	2009.3	自由記述によるアサーション抑制要因の検討—言いたいことが言えない理由としての他者配慮—. 第1回日本不安障害学会 (早稲田大学国際会議場).
伊藤直・松見淳子	2009.3	大学生の抑うつ傾向と日常活動から得られる楽しさとの関係—日記法による対人的文脈に着目した調査—. 第1回日本不安障害学会創立記念総会および学術大会 (早稲田大学).
中村春香・木戸盛年・成田健一	2009.2	嗜癡定義の考案とその内容的妥当性の検討. 第15回日本行動医学会学術総会 (大阪人間科学大学).
木戸盛年・嶋崎恒雄	2009.2	病的賭博者の予防的介入にむけて: 病的賭博者スクリーニングテストとギャンブル課題との関連性. 第15回日本行動医学会学術総会 (大阪人間科学大学).
高橋励・八木昭宏	2009.1	外部ノイズによる閾値の低下における空間周波数対応. 日本視覚学会2009年冬季大会 (工学院大学).
Ito, N., & Tanaka-Matsumi, J	2008.11	The first step in behavioral activation: A self-monitoring study of engagement in pleasant activities and positive & negative moods in depressed and nondepressed Japanese students. The 42nd Annual Convention of the Association for Behavioral and Cognitive Therapies, Orland, USA.
坂口晴香・成田健一・岸本陽一	2008.11	パーソナリティとの関連からみる情動知能—WLEISの大学生への適用—. 日本パーソナリティ心理学会第17回大会 (お茶の水女子大学).
堀麻佑子・嶋崎恒雄	2008.11	獲得・損失状況における強制選択場面と自由選択場面間の選好. 関西心理学会第120回大会 (奈良女子大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2008.11	抑制率はヒトの随伴性学習を反映するか?—インベーダーゲームを用いた実験的検討—. 関西心理学会第120回大会 (奈良女子大学).
西崎晃輔・嶋崎恒雄	2008.11	電子マネーの課題に関する探索的研究. 関西心理学会第120回大会 (奈良女子大

三田村仰・松見淳子	2008.11	発達障害児の母親のための学校交渉 —改訂版アサーション・トレーニングの一例—. 第8回日本認知療法学会(学術総合センター).
玉越勢治・島井哲志・八木昭宏	2008.11	ガス暖炉の生理心理的効果に関する予備的研究—virtual reality暖炉との比較、脳波・心拍を指標として—. 第120回関西心理学会(奈良女子大学).
平井啓・伊藤直・荒井弘和・湯川沙世子・須見遼子・井倉技・澤端章好・奥村明之進	2008.11	肺癌患者の術前術後の身体活動量と心理状態の変化. 第11回日本補完代替医療学会学術集会(横浜市観光記念会館).
平井啓・塩崎麻里子・本岡寛子・伊藤直・和田奈緒子・吉本岡寛子・平井啓・塩崎麻里子・伊藤直・和田奈緒子	2008.11	不安と心配の識別は可能か? がん患者の心配評価尺度作成. 日本行動療法学会第34回大会(日本教育会館).
Morimoto, F., & Yagi, A.	2008.10	Lag-1 sparing effect during attentional blink influences P3 components. The 48th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research. Austin, Texas.
Imanishi, A., & Oyama-Higa, M.	2008.10	What affects the Lyapunov exponents of finger plethysmogram? 2008 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics. Singapore.
Itoh, Y., & Oyama-Higa, M.	2008.10	Is the perceived agreeability of a face related to the fractal dimension of the face? 2008 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics. Singapore.
和田奈緒子・伊藤直・塩崎麻里子・佐々木淳・岡田紫甫・米良明日香・乾浩己・平井啓	2008.10	乳がん患者の抑うつ気分に対する機能的、非機能的な行動に関する探索的研究. 日本サイコオンコロジー学会第21回総会(学術総合センター).
木戸盛年・嶋崎恒雄	2008.9	病的賭博の予防的介入に向けて—修正日本語版SOGSと日本語版MAGSの分類精度の検討—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
水澤慶緒里・土肥伊都子	2008.9	放映法から見たジェンダー・パーソナリティの研究—共同性-作動性尺度とロールシャッハ・テストを用いて—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
陳香純・中島定彦・滝導博	2008.9	飼育下にあるバンドウイルカの鏡に対する反応. 日本動物心理学会第68回大会(常磐大学).
永石高敏・倉本由未・中島定彦	2008.9	カウンティング課題を用いたデグーの位置学習. 日本動物心理学会第68回大会(常磐大学).
一言英文	2008.9	文化的文脈とポジティブ心理学(ワークショップ話題提供). 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
一言英文・松見淳子	2008.9	暗黙の文化的自己観と社会的比較の関係. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
三田村仰	2008.9	発達障害の子をもつ母のための機能的アサーション・トレーニング「臨床行動分析(4)」。日本心理学会第72回大会(北海道大学).
伊藤直・松見淳子	2008.9	大学生の抑うつ傾向と快活動の関係. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
黒塚真智子・松見淳子	2008.9	朝の読書活動における環境調整が小学1年生の読書準備行動に及ぼす効果. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
沼田恵太郎・嶋崎恒雄	2008.9	ヒトの随伴性学習における2次の回顧的再価値化の実験的検討. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
斎藤元幸・嶋崎恒雄	2008.9	ヒトの随伴性学習における観察と介入. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
今西明・雄山真弓	2008.9	指尖容積脈波から得られる脈拍情報とリアプノフ指数との関係—暗算課題および鏡映描写課題遂行時における検討—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
谷田薫	2008.9	自己教育力尺度と進学動機—第11回カレッジ・コミュニティ調査資料を用いて—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
北村元隆・鈴木まや	2008.9	マウスにおけるformalin疼痛反応の特性. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
橋本あや・中島定彦	2008.9	ラットの運動性味覚嫌悪条件づけにおける文脈制御の検証. 日本動物心理学会第68回大会(常磐大学).
荒尾真理・鈴木まや・八木昭宏	2008.9	色が香りの感情評定に与える影響—精油を用いて—. 日本味と匂学会第42回大会(富山大学).
森本文人・八木昭宏	2008.9	第2標的呈示時に見られるP3潜時の遅延—注意の瞬き発生時における検討—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
木戸盛年・嶋崎恒雄	2008.9	病的賭博の予防的介入に向けて—修正日本語版SOGSと日本語版MAGSの分類精度の検討—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
平田佐智子・浮田潤	2008.9	有声・無声子音がもたらすイメージにおける濁点の影響—Garner's paradigmを用いて—. 日本心理学会第72回大会(北海道大学).
鈴木まや	2008.9	「味わいの心理学」日本心理学会第72回大会(ワークショップ企画)(北海道大学).
益田綾子・寺尾将彦・渡邊淳司・丸谷和史・八木昭宏・渡	2008.8	輝度勾配の知覚抑制による Craik O'Brien Cornsweet 錯視の消失. 日本視覚学会2008年夏季大会(東京工業大学).
沖中武・嶋崎恒雄	2008.8	ソフトテニスにおけるファーストサーブの正確性に及ぼす自己記録及び自己目標設定の効果. 日本行動分析学会第26回大会(横浜国立大学).
高橋励・八木昭宏	2008.8	ノイズによるコントラスト検出閾値の低下は平均輝度に依存する. 日本視覚学会2008年夏季大会(東京工業大学).
野田航・大対香奈子・原ひとみ・松見淳子	2008.8	学級単位の行動的介入を用いた小学1年生の姿勢改善:学級担任との協働による介入効果の検証. 日本行動分析学会第26回大会(横浜国立大学).
中村有里・松見淳子	2008.8	大学生のハンドボールにおける行動的コーチングの効果. 日本行動分析学会第26回大会(横浜国立大学).
Hirai, K., Ito, N., Arai, H., Sawabata, N., Ito, T., & Okumura, M.	2008.8	Physical activity and psychological adjustment in Japanese early-stage lung cancer patients after surgery. The 10th International Congress of Behavioral Medicine, Tokyo, Japan.
Ito, N., Hirai, K., Arai, H., Sawabata, N., Ito, T., &	2008.8	Cancer-related worry and psychological adjustment in Japanese lung cancer patients. The 10th International Congress of Behavioral Medicine, Tokyo, Japan.

Wada, N., Ito, N., Shiozaki, M., Sasaki, J., Okada, S., Mera, A., Inui, H., & Hirai, K.	2008.8	A preliminary study of functional and dysfunctional coping behaviors for the depressive mood in Japanese breast cancer patients. The 10th International Congress of Behavioral Medicine, Tokyo, Japan.
Takahashi, T., & Yagi, A.	2008.8	Stochastic resonance cannot describe decreasing contrast detection threshold by noise. 31st ECVF, Utrecht, The Netherlands.
Hirata, S., & Ukita, J.,	2008.7	Cross-modal interactions between visual brightness and image of consonants. The 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany.
Kido, M., & Shimazaki, T.	2008.7	Classification accuracy of modified Japanese version of South Oaks Gambling Screen (SOGS-J) and Japanese version of Massachusetts Gambling Screen (MAGS-J). International Addiction Summit, Melbourne, Australia.
Nakamura, H., & Narita, K.	2008.7	Relationships between codependent tendencies and addictive behaviors under interpersonal stress situations among Japanese university students. 2008 International Addiction Summit: A Climate for Change, Melbourne, Australia.
Terao, M., Masuda, A., Watanabe, J., Maruya, K.,	2008.7	The Craik-O'Brien-Cornsweet illusion and the awareness of luminance gradient at the border. Asia-Pacific Conference on Vision, Brisbane, Australia.
Sugimoto, F., Fujimoto, K., & Yagi, A.	2008.7	Attention enhances perception of backscroll illusion. The 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany.
Horikawa, M., Yagi, A., & Ukita, J.	2008.7	Listening to music affects performance and psychophysiological changes in sport. The 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany.
Numata, K., & Shimazaki, T.	2008.7	Second-order retrospective revaluation in human contingency learning. The 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany.
Takahashi, T., & Yagi, A.	2008.7	Noise improvement in contrast detection is changed by temporal property of stimulus. The 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany.
玉越勢治・島井哲志・八木昭宏	2008.7	ガス暖炉の心理生理的効果に関する予備的研究 -プローブ刺激法を用いたERPを指標として-. 第26回日本生理心理学会大会(琉球大学).
森本文人・八木昭宏	2008.7	注意の瞬き回避に伴う脳活動. 第26回日本生理心理学会大会(琉球大学).
高橋励・坂田恵子・藤本清・八木昭宏	2008.7	ラムダ反応を指標とした大きさ錯視の脳内機構の検討. . 第26回生理心理学会大会(琉球大学).
森真佐人・八木昭宏	2008.7	後頭部陽性成分における刺激個数と空間的注意の影響. 第26回日本生理心理学会大会(琉球大学).
平田佐智子・浮田潤	2008.6	有声・無声子音がもたらすイメージへの実験的アプローチ(2). 日本認知心理学会第6回大会(千葉大学).
平田佐智子	2008.6	音象徴(sound symbolism)に関する一考察. 認知科学会第27回大会(同志社大学).
今西明・雄山真弓	2008.6	指尖容積脈波から得られる脈拍情報とリアプノフ指数との関係-シミュレーションおよび実験による検討-. 日本人間工学会第49回大会(共立女子大学).
Noda, W., & Tanaka-Matsumi, J.	2008.5	Effect of fluency training for elementary students on retention, endurance, and application of Kanji reading. The 34th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, Chicago, USA.
Tanaka, Y., & Shimazaki, T.	2008.5	Effect of self-generated rule on instructed/shaped nonverbal behavior. The 34th Annual Convention of the Association for Behavior Analysis International, USA, Chicago.
Terao, M., Watanabe, J., Yagi, A., & Nishida, S.	2008.5	Improvement of chromatic temporal resolution during smooth pursuit eye movement. The 8th Meeting of the Vision Science Society, Naples, USA.

## 2007年度

Nagaishi, T., & Nakajima, S.	2008.3	What you see is what you have: Further evidence for the summation of latent inhibition and overshadowing in rats' conditioned taste aversion. The 15th Annual International Conference on Comparative Cognition, Melbourne Beach, Florida.
堀川雅美・八木昭宏	2008.3	指導方法の変化に伴う選手の心理競技能力および不安の変化. 日本フットボール学会第5回大会(大阪市立大学).
寺尾将彦・渡邊淳司・八木昭宏・西田眞也	2008.1	追跡眼球運動における色時間分解能の向上. 日本視覚学会2008年冬季大会(工学院大学).
高橋励・八木昭宏	2008.1	確率共振における時間特性の影響. 日本視覚学会2008年冬季大会(工学院大学).
杉本史恵・藤本清・八木昭宏	2008.1	空間注意によるバックスクロール錯視の増強. 日本視覚学会2008年冬期大会(工学院大学).